



KYUSHU UNIVERSITY
LIBRARY

Annual Report 2005

九州大学附属図書館年報 2005

CONTENTS

もくじ

ネットワーク社会の大学図書館へ向けて ---	2
TOPICS -----	3
情報リテラシー学習支援 -----	8
展示会・講演会(社会連携事業) -----	9
国際交流 -----	11
研究開発室活動 -----	13
職員研修 -----	14
統計 -----	15
組織 -----	21
人事 -----	23
図書館日誌 -----	25

ネットワーク社会の大学図書館へ向けて

九州大学附属図書館では、法人化前の平成10年から、大学図書館の本来あるべき姿を実現すべく、また、ネットワーク社会に適應できる基盤を整備すべく、組織だった取り組みを行ってきました。その結果、学内外の関係者のご理解とご支援により、筑紫分館の設置・建設をはじめ、目録データの遡及入力、学生のための学習図書館機能の整備・充実、大型研究資料の整備、電子ジャーナルの整備等、実に多くの懸案・課題に関して具体的な成果をあげることができました。

こうした成果に基づき、本学では、次のステージに力強く踏み出し、既にいくつかの顕著な成果をあげつつあります。まず、石炭研究資料センター等を拡充改組して「記録資料館」という研究組織を附属図書館に付設しました。教授陣による研究展開に加え、専門的な図書資料の扱いについての図書館職員への指導も期待されます。また、伊都新キャンパスに理系図書館がオープンしました。自動書庫等、先進的な機能を実現しています。さらに、事務機構を改編し、図書館の業務をより明確に意識できる体制が整いました。

ネットワーク社会の展開に対応して、情報通信技術を駆使した本学独自の事業を展開しています。電子ジャーナルの充実に加えて、それにリンクし効果的に活用できる「きゅうとLinQ」等のユニークな「きゅうとサービス」を開始し、その充実を図っています。また、研究成果の社会への直接発信に関して、本学独自のコンセプトも取り入れた機関リポジトリ事業を開始し、第一版を公開しました。図書資料の配送サービス等に関して、新たにe-DDSという新しいコピー配送サービスを開始しました。電子会議システムも導入し、キャンパス間の連絡や会議等に活用されています。

社会連携・国際ネットワークに関しても、これまでの学内における貴重資料等の展示や講演会に加えて、公共図書館と連携した事業や出版社と連携したセミナー等の新機軸も打ち出しています。また、日韓シンポジウムの開催やソウル大学校からの客員図書館員の受入等、新しい事業もスタートさせました。

附属図書館では、こうした最近一年間の活動を学内外の利用者や関係者にお知らせするために「図書館年報」を創刊することにしました。これはその第一号です。今後ともこうした図書館活動に対して、ご理解とご支援をくださいますようお願いいたします。



附属図書館長
有川 節夫

Topics

理系図書館がオープン

平成17年10月、九州大学伊都キャンパスの誕生とともに、理系図書館が開館した。福岡市の西部、糸島半島の中ほどの高台に建ち、博多湾を一望する。

理系図書館は工学系・情報系部局の移転に伴い、関連する分野の学術資料を中心とするコレクションを集積し、伊都キャンパスにおける学習・教育・研究を支援する中心施設としてサービスを開始した。九州大学のキャンパス移転の進行に従い、将来は地上2階・3階部分が増築され、工学系・情報系部局の他、理学・数学系、農学系をサービス対象とする総合的な理工学・農学図書館として完成する予定である。また、情報基盤センターの建物と一体的な施設としても整備され、同センターとの緊密な連携により、本学における先進的な電子図書館の中核として機能することが期待されている。

計画の実現へ

この新図書館の立ち上げに際し、附属図書館では平成13年から具体的な検討をはじめ、施設計画から移転計画、サービス計画、運用計画など様々なレベルの内容を幅広く検討してきた。平成16年度までにそれぞれの計画書が確定し、平成17年度に入ってから、その計画及び手順書に基づき、実際の移転作業、運用の準備、家具・設備の導入、資料移転に伴うデータ整備等を行った。

開かれた図書館を目指して

新図書館の広報活動も兼ねて、名称・愛称およびロゴマークを公募した。名称・愛称の審査委員会には、地元の方や学生にも参加してもらい、正式名称「理系図書館」、愛称「キューリット」を選出し、開学記念日にあわせて授賞式を行った。

また、ロゴマークには、芸術工学部3年生(当時)の作品を採用し、すでに館内のサインや開館記念グッズ等に使用している。



(コメント) 自然に恵まれた地域であることから、草木の緑と太陽をイメージし、そこに九州大学の「Q」を重ねてデザインされています。知識をどんどん吸収して成長しようという若々しさに満ち溢れています。

滞在型図書館

長時間滞在したくなるような快適な空間を創出するため、家具の導入にあたっては、図書館職員が十数種の椅子のサンプルに実際に

座って仕事をしたり、家具メーカー数社によるプレゼンテーションを行うなどして検討を重ね、快適かつデザイン性の高い設備の導入を実現させた。

自動書庫の導入

平成18年2月には、自動書庫が完成し、運用を開始した。初期入庫冊数は13万冊。図書館業務システムと連携し、OPACから直接入納リクエストができるようになっている。現在リクエストはカウンターで受け付けているが、いずれ、研究室のパソコンから利用者が直接リクエストできるように運用拡大も視野にいれている。

□コンセプト

○先端的な電子図書館の構築

- ・研究室等に居ながらにして利用できる図書館
- ・自動書庫による資料出納の自動化

○自然科学系図書館

- ・基礎科学から応用科学までの分野の資料を包摂する自然科学系図書館
- ・学問的雰囲気と活気に満ちた学習図書館
- ・機能的で充実した研究図書館

○図書館専門職員による充実した支援サービスの実現

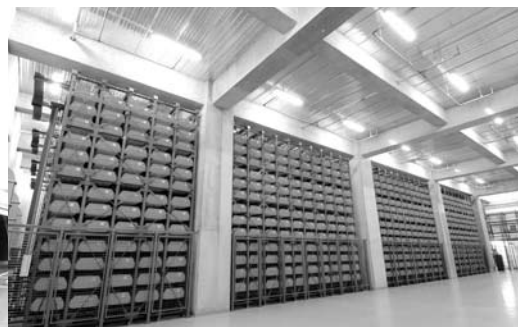
- ・レファレンス・サービスの高度化
- ・情報リテラシー教育の拡充

○開かれた図書館の実現

- ・地域社会との連携
- ・国際交流の推進
- ・障害をもつ利用者へのバリアフリー化

□施設概要(「完成時」は第Ⅱ期工事完了時を指す)

建築面積:3,534.81㎡
 延床面積:6,976.01㎡(完成時13,420㎡)
 構造:鉄筋コンクリート造
 地下1階地上1階(完成時地下1階地上3階)
 収蔵可能冊数:約70万冊(完成時130万冊)
 うち自動書庫:40万冊(同80万冊)
 閲覧席数:252席(完成時約780席)
 蔵書冊数:約40万冊(H.18.10)
 サービス対象者数:約4300人(H.18.10)



文系合同図書館が誕生

平成 17 年 4 月、文学部・教育学部・法学部・経済学部の学部図書館が統合され、文系合同図書館としてサービスを開始した。これは、事務系組織の改組の一環である貝塚地区事務部発足によるものである。

これを機に、各学部書庫の行き来が自由になり、複数の学部の資料を一度に借り出すことができるようになったことに加え、閲覧席の増設、開室時間の拡張（平日は 9 時から 22 時まで、土曜日は 10 時から 17 時まで）、文系学部以外の学内利用者への書庫開放など、サービスを拡大した。

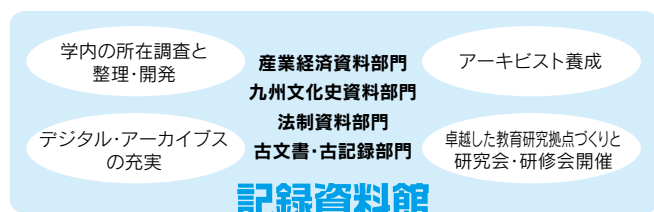
記録資料館を付設

平成 17 年 4 月、石炭研究資料センター、旧九州文化史研究施設など関連施設を統合し、附属図書館に付設の記録資料館を設置した。

「産業経済資料部門」「九州文化史資料部門」「法制資料部門」「古文書・古記録部門」の 4 部門から構成される。

記録資料館は、九州大学が蓄積してきた膨大な記録資料を系統的に整理・保存し、部門間の連携、附属図書館との連携を図りながら、研究者の学術的利用に供するとともに、一般市民に向けて特に地域資料を活かした情報発信を行っていくことを柱としている。

初年度の 17 年度は、安定的かつ効率的な運営を可能とするための環境整備として、記録資料館運営委員会を組織し、記録資料館の事務体制等について整備を行った。



研究開発室との連携による
サブジェクトライブラリアン養成

デジタル・アーカイブス構築

図書館との連携

学外研究員制度

講演会・シンポジウム・公開講座等、社会貢献事業の展開

展示会の開催・共催

学外との連携

Century of Scienceの導入

附属図書館は、アジア太平洋地域の大学で初めて、「Web of Science」のバックファイル「Century of Science」を導入した。これは、研究戦略ツールとして定評のある学術文献・引用索引データベース「Web of Science」に、1900 年から 1944 年までの時期を対象とする文献情報と引用文献データを加えたもので、追加された論文は約 85 万点にのぼる。これにより、1900 年から現在までの約 9,000 誌の学術雑誌に収録された文献情報が検索できるようになり、九州大学における研究の発展に大きく寄与することが期待されている。

図書館事務組織の改組

平成 17 年 4 月より、附属図書館事務組織の大幅な改組を行った。新たな事務組織は、戦略的に図書館の課題を遂行するための図書館企画課、高度な利用支援サービスを提供する利用支援課、電子情報資源を含む多様なメディアによるコレクションを構築するためのコンテンツ整備課の 3 課体制である。（組織図 P.21 を参照）

これを受けて、中央図書館では館内の大幅なレイアウト変更を行い、従来離れた位置にあったレファレンスカウンターをメインカウンターに一元化し、閲覧席を増やすなど、利用者の利便性を向上させた。また、新しい体制により、配送サービスや電子的サービスの充実が図られ、経費面でも図書費の節減が図られるなど一定の効果があがった一方で、係間の業務の平準化など今後取り組むべき課題も残された。

六本松分館においては、受入掛と目録掛を統合して図書情報係とし、財務会計システム導入による図書受入・整理業務の効率化を図った。さらに、閲覧掛をレファレンス係と利用サービス係に分け、研究者に対する文献提供サービスの強化・拡充及び情報リテラシー教育に対応した。

図書館広報室の設置

平成 17 年 7 月、附属図書館の広報活動の方針を策定し、各広報メディアを有機的に結びつけて効果的な広報を行う目的で、図書館広報室を設置した。幅広く情報収集を行い、機動的な広報活動が展開できるよう、館長、副館長、事務部長に直結する組織とし、中央図書館各課、各分館・室の職員により実務的に構成されている。17 年度には図書館広報誌や HP の見直し提案され、18 年度以降、図書館年報の創刊や HP のリニューアルを行うとともにライブラリーアイデンティティの確立に向けて効果的な広報体制を軌道にのせることが今後の課題である。

Topics



キャンパスをつなぐ物流と情報のネットワーク

伊都新キャンパスの誕生と今後の長期にわたる統合移転をにらみ、附属図書館の物流と情報のネットワークを強化した。中央図書館と6つの分館・室を結ぶ配送システムを構築して物理的な距離を縮めるとともに、ネットワーク環境下で様々なサービスが受けられる電

子図書館機能の強化を図っている。今後、e-DDS や電子会議システムの運用を本格化し、分散したキャンパス間でも距離を感じさせないサービスの高度化、均質化を推進する。

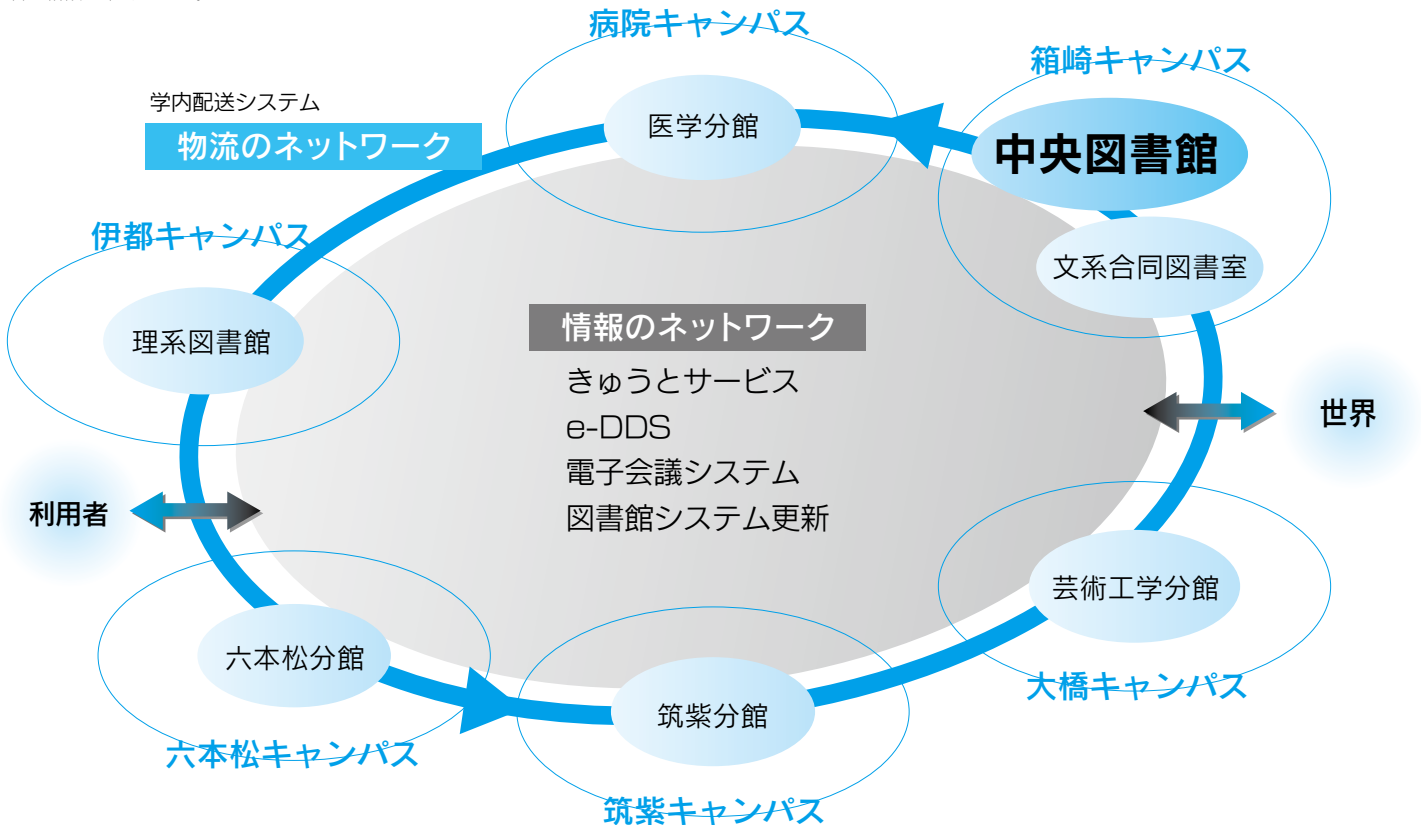
学内配送システム

従来、中央図書館と各分館・室を結んでいた学内配送システムに、平成17年9月末、伊都キャンパスの理系図書館及び各部門群をまわる配送ルートを加え、物流のネットワークを強化した。中央図書館で集中受入された雑誌や図書、他キャンパスから配送・複写申込のあった図書や複写物等が、毎日この便でキャンパス間を移動している。

さらに、きゅうとMyLibraryによるオンラインでの図書配送・文献複写申し込みが可能となり、利用者の物理的アクセスと学内便での申込用紙のやり取り（半日～1日）が解消されて、他キャンパスや学外へ依頼した文献の到着が格段に早くなった。

e-DDS(Electrical Document Delivery System)

複写依頼のあった文献を、電子化して依頼館へ電送することにより、物理的な配送時間を大幅に短縮して、利用者に迅速に届けるサービス。平成17年度にシステムが導入され、中央図書館と理系図書館との間で、試行サービスを開始した。18年度の早い時期での本運用を目指す。



電子会議システム

平成16年度に導入された電子会議システムを使用して、箱崎キャンパスと伊都キャンパスを繋いで理系図書館開館記念セミナーを開催するなど、実験的な試みがなされている。

18年度には、このシステムを利用して、中央図書館と理系図書館の間でオンラインレファレンスサービスを実現させる予定である。

図書館システム更新

平成17年12月、図書館業務システムの機器更新によりNEC社のLICSU-Webが導入された。MyLibrary（利用者用図書館ポータルページ）機能が強化され、物流と情報のネットワークをバックアップしている。（次頁「きゅうとMyLibrary」を参照）また、これを機に、ファイヤーウォール導入、中央図書館と分館・室をつなぐ図書館VLAN構築、及びウイルス・スパイウェア対策ソフトウェア導入を行い、ネットワーク及びサーバ・クライアントのセキュリティを強化した。

電子図書館と利用者を結ぶ「きょうとサービス」

「きょうとサービス」は、附属図書館が提供する電子的サービスの総称である。「きょうと LinQ」のサービス開始を機に、従来「電子ジャーナル集」「MyLibrary」「OPAC」など、一般的呼称を用いていたサービスに、附属図書館のマスコットキャラクター「きょうと君」を採用した統一なロゴを与えることにより、附属図書館独自のサービスであることを明示した。

「きょうとサービス」として各サービスが有機的に結びつくことにより、利用者は、ネットワーク上に散在する情報へと、効率よくナビゲートされる。さらに、このサービスを「ライブラリーアイデンティティ」構築の試みのひとつとして位置づけ、これをきっかけに図書館のイメージ戦略をすすめている。

以下が、「きょうとサービス」に含まれる各サービスである。

LinQ きょうとLinQ (キュウト リンキュー)

Web of Science、PubMedなどでの文献検索から、電子ジャーナル、冊子所蔵検索、文献複写申込といった大学が提供するリソースへの確にナビゲートするリンクサービス。これまで、利用者が必要に応じ意識して切り替えていた個々のサービスが、きょうと LinQ の中間窓に集約して表示され、ワンステップでほしい情報へ到達することができるようになった。平成 17 年 4 月にサービスを開始し、日本ではじめて Google Scholar とも連携して話題を呼んだ。雑誌インパクトファクター、関連文献検索といった付加情報へのリンクも提供している。

E-Journals きょうとE-Journals (キュウト イー ジャーナルズ)

九州大学からアクセス可能な電子ジャーナルのリンク集。平成 17 年 4 月に従来の電子ジャーナル集からリニューアルした。ベンダー管理型の電子ジャーナル管理ツールを導入したことにより、登録タイトル数の増加、検索機能の充実、定期的なデータ更新など、飛躍的に機能が向上した。アルファベット順リストの一覧表示のほか、タイトル・ISSN・分野等からも検索でき、タイトルの提供元ごとに利用可能範囲(年)も表示されるなど、文献の入手を効率よくサポートしている。



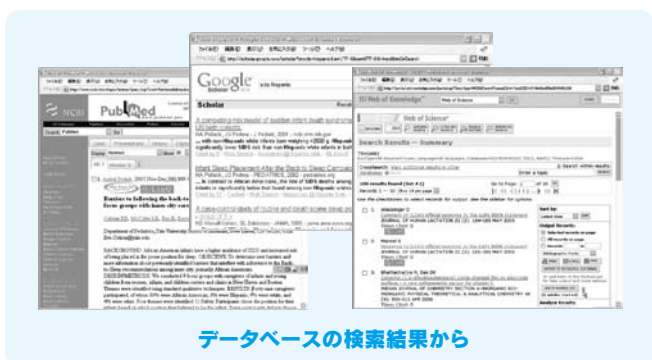
MyLibrary きょうとMyLibrary (キュウト マイライブラリー)

利用者個々人でカスタマイズできる図書館ポータルページ。パスワードを所有することにより、借出期間の延長や借出状況の確認など、Web上で個々の利用者に対応したサービスが受けられる。以前より運用されていた MyLibrary だが、図書館システム更新により、オンラインでの文献複写・図書配送申込、新着資料のアラートサービス(SDI)等、機能が拡大し、きょうと MyLibrary として再出発した。



OPAC きょうとOPAC (キュウト オーパック)

九大の所蔵する資料を検索できるオンライン蔵書検索。図書館システム更新により、e-DDS や配送サービスの申込、自動書庫の出庫リクエスト、きょうと LinQ を経由しての電子ジャーナルの入手など、検索結果から関連サービスへと展開する機能が追加された。



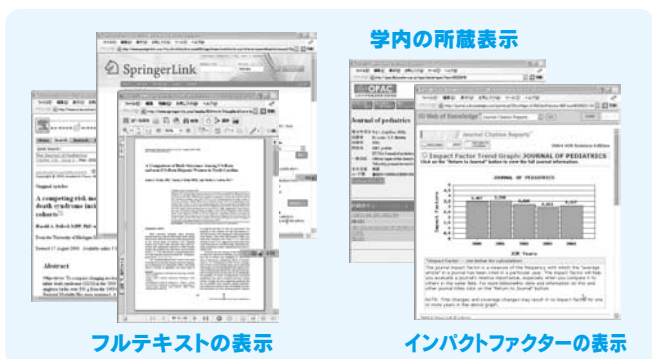
データベースの検索結果から



ONE CLICK!
ONE CLICK!

きょうとLinQの
中間窓をあけて

ONE CLICK!
ONE CLICK!



フルテキストの表示

インパクトファクターの表示

Topics



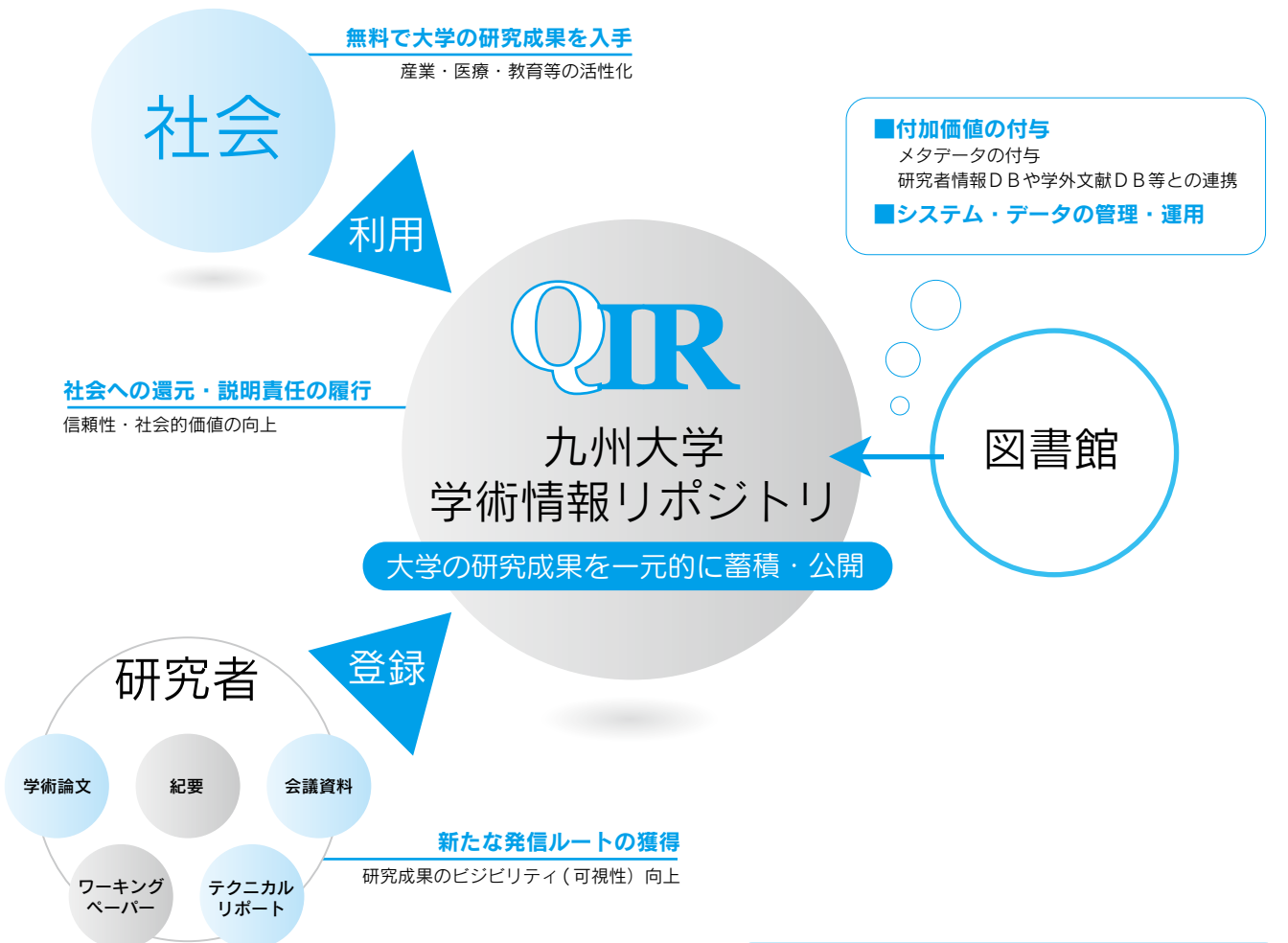
九州大学学術情報リポジトリ(QIR) <https://qir.kyushu-u.ac.jp>

附属図書館では、学内で生産された研究成果物を収集・蓄積・保存し、原則的に無償で公開することを目的としたインターネット上のデータベース「九州大学学術情報リポジトリ(QIR)」(以下、QIR)を公開した。

このQIRは、九州大学に所属する研究者が、雑誌掲載論文をはじめ、紀要論文、学位論文、テクニカルレポートなど、さまざまな自己の研究成果物を自ら登録し、世界に向けて発信できることが特徴であり、附属図書館では、平成17年度より国立情報学研究所の最先端学術情報基盤(CSI)の構築推進委託事業に参加し、システム及び制度の整備を進めてきた。

機関リポジトリ(IR: Institutional Repository)は、学術雑誌の価格高騰による学術情報流通への危機感や、大学が社会への説明責任を果たすことへの要求の高まりを背景に、現在全世界的な潮流として普及しつつある。

九州大学では、情報化推進構想(平成8年3月「情報化推進専門委員会最終報告」有川節夫委員長)及び科学技術・学術審議会学術分科会報告「学術情報基盤の今後の在り方について」を踏まえ、メタデータベースを発展させ、学内研究成果の一次資料を中心とした学内学術情報流通拠点の形成を目指している。



QIRは、収録するコンテンツが豊富になってはじめてその威力を発揮する。今後コンテンツの収集、学内での広報活動を行い、生産・登録から発信までの流れを軌道に乗せるとともに、大学評価情報システム(研究者情報DB)、リンクリゾルバ等学内外のシステムとの連携を推進し、登録作業負担の軽減、情報発信の一元化を図ってゆく計画である。

学内の研究者の方へ

学術情報リポジトリ(QIR)へのご理解をいただき、研究成果物の登録へのご協力をお願いいたします。
詳しくは、下記URLをご覧ください。

<https://qir.kyushu-u.ac.jp>

<お問合せ先>

附属図書館コンテンツ整備課電子化係
tel.092-642-2342 fax.092-642-2330
irdb@lib.kyushu-u.ac.jp

情報リテラシー学習支援



利用者が学習・研究を行う上で必要な文献や情報を効率的に探し出し活用できるよう、情報基盤センターとの共催で、様々な情報検索講習会を開催している。平成17年度は以下の講習会を行った。

定期講習会

あらかじめ図書館が講習内容と日程を設定し、図書館職員が講師となつて行うものである。平成13年度より毎年定期的に行っているが、受講者が年々減少傾向にあり、内容や日程設定、広報手段等に一層の改善が必要と思われる。

企画講習会

データベースを提供するベンダーなどが講師となり、特定のデータベースについての講習を行う。特定のデータベースについてのより詳しい説明が聞けるため、教員や大学院生を中心に受講されている。今後も新しく導入されたデータベースや定評のあるデータベースについて、ベンダーと協力しながら、複数のキャンパスで開催していく予定である。

オンデマンド講習会

利用者の要望に応じて日程、講習内容等を設定し、授業、ゼミ、研究室など様々な規模で、図書館職員が講師となって行っている。15年度より実施しているこの講習会は、回数、受講者数とも年々かなりの増加が見られ、授業やゼミにとりいれる教員が増えつつある。

今後、定期講習会のあり方を探りつつ、オンデマンド講習会をさらに充実させるとともに、学部1年生を対象として18年度に始まるコアセミナーで図書館の使い方の講習を行うなど、授業との連携を深めていく考えである。

また、講習会だけでなく、Web上でのリテラシー学習支援の充実も今後の課題である。

学内の方へ

附属図書館では、オンデマンド講習会の申し込みを随時受け付けています。ゼミや授業、学生有志のグループ等、どのような単位でも結構です。内容も、図書館の使い方から特定のデータベースの使用法まで、ご要望に応じて設定できますので、ぜひご利用ください。

＜お申し込み・お問合せ先＞

附属図書館利用支援課調査サービス係
tel.092-642-2336 fax.092-642-2340
ref1@lib.kyushu-u.ac.jp

2005年度実績

講習会種別 (回数&人数)

会場	定期講習会		企画講習会		オンデマンド講習会		計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
箱崎地区	42	81	3	26	11	157	56	264
病院地区			2	70	5	381	7	451
六本松地区	3	11	1	2	7	77	11	90
大橋地区	3	15			1	4	4	19
計	48	107	6	98	24	619	78	824

受講者別 (人数)

会場	教務員	院生	学生	その他	計
箱崎地区	23	56	173	12	264
病院地区	62	15	374	0	451
六本松地区	9	17	64	0	90
大橋地区	10	6	2	1	19
計	104	94	613	13	824

定期講習会

内容	地区	回数	人数
図書の探し方	箱崎	2	7
雑誌論文(文系)の探し方	箱崎	5	13
	大橋	1	12
雑誌論文(理系)の探し方	箱崎	5	16
	箱崎	6	11
OPAC,Webcat Plus,相互利用	六本松	2	8
	大橋	1	3
	箱崎	1	1
インターネットで情報検索	箱崎	1	1
	六本松	1	3
MAGAZINEPLUS,NDL-OPAC	箱崎	4	3
	大橋	1	0
Current Contents	箱崎	3	5
Web of Science,JCR	箱崎	4	13
電子ジャーナル,きゆうとLinQ	箱崎	4	6
大学図書館入門 第1部: 図書館の基本的な使い方	箱崎	4	0
大学図書館入門 第2部: 論文作成のための各種データベースの紹介	箱崎	4	6
合計		48	107

企画講習会

内容	地区	回数	人数
LexisNexis Academic	六本松	1	2
Web of Science, JCR	箱崎	2	15
	病院	2	70
Ovidデータベース入門	箱崎	1	11
合計		6	98

オンデマンド講習会

日付	内容	対象	人数
4.12	雑誌論文の探し方(和文、欧文)	経済学部学生	9
4.19	雑誌論文の探し方(卒論作成の為)	経済学部学生	7
4.19	雑誌論文の探し方(CC,WoS,SD)	生物資源環境科学府院生	13
4.22	OPAC,PubMed,MEDLINE,CINAHL,医中誌Web	医学部学生	25
5.17	PubMed,MEDLINE,OPAC	医学教育JICA研修生	11
5.20	検索の基本的内容	経済学部学生	8
6.1	データベース入門(CC,WoS,EJ)	六本松 教員	7
6.8	検索の基本的内容	法学部学生	5
6.22	OPAC,Webcat Plus,MAGAZINEPLUS	全学教育(授業)	11
7.4	OPAC,NDL-OPAC,雑誌記事索引	経済学部学生(授業)	33
7.4	OPAC,NDL-OPAC,雑誌記事索引	経済学部学生(授業)	16
8.10	OPAC,MAGAZINEPLUS,電子ジャーナル	芸術工学府院生	4
9.2	MEDLINE,電子ジャーナル,PubMed,OPAC	医学部学生(授業)	98
9.2	MEDLINE,電子ジャーナル,PubMed,OPAC	医学部学生(授業)	98
10.18	LexisNexis Academic	六本松大学院生	17
10.18	雑誌論文検索	六本松 学生	10
10.19	OPAC,BOOKPLUS,MAGAZINEPLUS,聞蔵	六本松 学生	11
10.26	OPAC,BOOKPLUS,MAGAZINEPLUS,聞蔵	六本松 学生	11
11.4	Webcat Plus,MAGAZINEPLUS,NDL-OPAC,OPAC 調べものツールの紹介、館内案内、カウンターでの利用方法	農学部学生(授業)	18
11.4	OPAC,学術論文の探し方,雑誌論文DB(自然系)	理学部学生	15
11.9	OPAC,BOOKPLUS,MAGAZINEPLUS,聞蔵	六本松 学生	10
11.29	OPAC,NDL-OPAC,MAGAZINEPLUS,館内ツアー	経済学部学生(授業)	20
11.29	Web of Science, JCR	医学部保健科学学生(授業)	149
1.6	OPAC,学術論文の探し方,雑誌論文DB(自然系)	理学部学生	13
合計			619

展示会・講演会(社会連携事業)



第46回附属図書館貴重文物展示「源氏物語の本いろいろ－源氏物語はどんな本で読まれてきたか－」

【期 間】平成17年5月9日(月)-5月18日(水) 【場 所】九州大学附属図書館 2階 自由閲覧室 【入場者数】411名

○関連講演会「源氏物語はどのように読まれたか？－平安・鎌倉期の読者たち－」

【日 時】平成17年5月15日(日) 【講 師】辛島正雄(九州大学大学院人文科学研究院助教授)

開学記念行事の一環として開催された同展示会では、中央図書館・文学部・六本松分館が所蔵する源氏物語に関連する資料や、個人蔵の貴重な資料合わせて約100点あまりを、会場の中央図書館に一堂に展示した。

来場者からのアンケートでは、「大学図書館が所蔵する貴重な資料を見ることができてよかった」等の感想が寄せられたが、「このような良質な資料の展示会はもっとPRすべき」といった声もあり、大学が所蔵する資料を公開することの重要性を再認識した。

福岡県図書館協会設立記念展示会「源氏物語－中世から現代まで－」

【期 間】平成18年2月23日(木)-2月28日(火) 【場 所】アクロス福岡 2階交流ギャラリー
【主 催】福岡県図書館協会 【主 管】九州大学附属図書館・福岡県立図書館 【入場者数】1,970名

○関連講演会Ⅰ「まんが源氏物語の描き方」

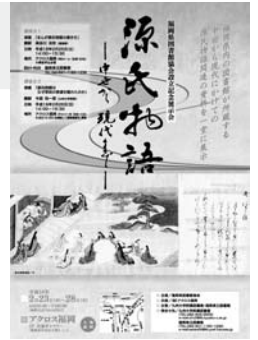
【日 時】平成18年2月25日(土)
【講 師】長谷川法世(漫画家)

○関連講演会Ⅱ「源氏物語はなぜ帝妃の密通を語れたのか」

【日 時】平成18年2月26日(日)
【講 師】今西裕一郎(九州大学大学院人文科学研究院教授)

平成17年3月の福岡県図書館協会の設立を記念して開催された同展示会では、前述の「源氏物語の本いろいろ」の展示物を核として、福岡県内の協会加盟の図書館が所蔵している源氏物語関連の資料を一堂に集めて展示した。特に学校図書館等の協力を得て、若者に再評価されている源氏物語の今日的な側面をもとりあげて紹介した。展示は、九州大学附属図書館が所蔵する古い貴重な資料(写本や版本、絵巻物など)と公共図書館等が所蔵する新しい資料(現代語訳、マンガ、映画資料など)の大きく二つに分けて源氏物語の世界を紹介するとともに、貴重資料の画像データベースや絵巻物のビデオ放映なども行った。

知名度の高い源氏物語関連の展示会ということに加えテレビでのPR効果もあってか、初日から多数の来場者が訪れ、6日間で約2000名もの入場者を記録。50代以上の来場者が7割を超え、源氏物語を再び読み直したいとの感想が多く寄せられた一方で、若い世代からもわかりやすく興味深かったとの声が多く、幅広い層にアピールする展示会となった。



九州大学理系図書館開館記念特別企画展－貴重資料『蒙古襲来絵詞』他一般公開－

【期 間】平成18年1月20日(金)-2月19日(日) 【場 所】伊都国歴史博物館
【主 催】九州大学附属図書館・前原市教育委員会 【入場者数】1,655人

○関連講演会「蒙古襲来絵詞をめぐる」

【日 時】平成18年2月12日(日) 【講 師】西谷 正(伊都国歴史博物館長・九州大学名誉教授)

理系図書館の開館を記念して、伊都キャンパスに隣接する前原市の伊都国歴史博物館にて、同市教育委員会との共催により、九州大学附属図書館が所蔵する「蒙古襲来絵詞」他の資料を一般公開した。

「蒙古襲来絵詞」は肥後国御家人竹崎季長が文永・弘安の役での自らの活躍を描かせた絵巻物である。現在宮内庁に所蔵される原本は、近世後期に多くの模本が作成されたが、九州大学所蔵本は、近世後期に肥後の阿蘇神社にあった模本をさらに写したもので、原本では破損して読めない詞を判読できる部分もあり、貴重な模本の一つである。

このほか、「竹とり物語」「伊勢物語」「曾我物語」「中将姫」などの奈良

絵本もあわせて展示した。

開催期間中、通常期のおよそ2倍の入場者を記録し、来館者は普段目にするのできない貴重な資料に熱心に見入っていた。また、関連講演会も、会場が満席になる盛況振りで、地域から寄せられる関心の高さが感じられた。これを契機に、今後、九州大学附属図書館と前原市との連携を進めていくことが確認された。



理系図書館開館記念セミナー「九州大学研究者のインパクト」

【日 時】平成17年10月18日(火) 13:30-17:00

【会場1】九州大学 伊都キャンパス ビッグオレンジ

【会場2】九州大学 箱崎キャンパス 附属図書館視聴覚ホール(テレビ会議システムによるサテライト視聴)

【主 催】九州大学附属図書館 【共 催】九州大学大学院農学研究院

伊都キャンパス誕生と理系図書館開館を記念し、セミナー「九州大学研究者のインパクト」を、伊都キャンパスと箱崎キャンパスの会場をテレビ会議システムで結んで行った。

このセミナーは、九州大学研究者の100年にわたる研究動向を引用索引データベース「Web of Science」の分析を通して振り返り、九州大学の今後の研究戦略を展望するもの。研究活動に密着したテーマのため、研究者、大学院生等の参加も多く、研究者、ベンダー、図書館というそれぞれの立場からの講演に、興味深く耳を傾けていた。満席の会場からは、この方向でのさらなるイベントの開催や出版の

要望も出され、研究戦略の重要性や引用索引データベースの研究戦略ツールとしての重要性があらためて認識されたセミナーとなった。



「九州大学研究者のインパクト」講演を行う荒木副館長

Program

13:30-13:40	開会挨拶	今西裕一郎	九州大学附属図書館長(理事・副学長)
13:40-13:55	「研究戦略のツールとしてのWeb of Science」	有川 節夫	九州大学理事・副学長
13:55-14:55	「Web of Scienceから見た九州大学の100年」	富入 暢子	トムソンサイエンティフィック シニアアナリスト
14:55-15:10	休憩		
15:10-15:25	ゲストスピーチ	山藤 馨	福岡工業大学学長・九州大学名誉教授
15:25-15:40	「山藤 一雄先生と現農学研究」	山田 耕路	九州大学大学院農学研究院教授・総長特別補佐
15:40-16:00	「九大附属図書館のIT化と情報発信戦略における役割」	荒木啓二郎	九州大学大学院システム情報科学研究院教授・附属図書館副館長
16:00-16:10	質疑応答	富入 暢子	トムソンサイエンティフィック シニアアナリスト
16:10-17:00	【伊都キャンパスのみ】理系図書館施設見学及びWeb of Science のデモンストレーション		

中央図書館常設展示

中央図書館2階常設展示コーナーにおいて、平成17年度、以下の展示会を開催した。

「6月30日は相対性理論100歳の誕生日」(H17.6.16-7.15)

2005年は、アインシュタインの特殊相対性理論の論文が1905年に発表されてからちょうど100年目にあたる。

その相対性理論を日本に紹介したのが、当時の九州帝国大学の桑木或雄教授であり、先生が蒐集された西洋・東洋・日本の科学史関係資料2,800点が、「桑木文庫」として附属図書館に保管されている。この企画展示では、理学研究院物理学部門の協力を得て、相対性理論、アインシュタインと九州大学、桑木先生と「桑木文庫」、相対性理論

関係図書などのエッセンスを紹介した。桑木先生は、「私が知り合う喜びを持った最初の日本の物理学者」とアインシュタインに称されている。



九大工学部理科教室前にて(大正11年12月25日)
前列右から2番目がアインシュタイン博士、4番目が桑木或雄先生

「古今和歌集1100年・新古今和歌集800年」(H17.12.5-12.26)

平安時代、延喜5年(905年)に醍醐天皇の命により編纂された「古今和歌集」、それから300年後の鎌倉時代、元久2年(1205年)に後鳥羽上皇の命により編纂された「新古今和歌集」。本年(2005

年)はそれぞれ1100年目、800年目の節目の年にあたる。これにちなんで、九州大学附属図書館が所蔵する貴重書の中から、古今和歌集と新古今和歌集に関連した資料の一部を展示した。

国際交流



日韓国際シンポジウム「本が繋ぐ近い都市(まち):日韓図書館交流2005」

- 【日 時】平成17年10月20日(木) 13:00~17:00
 【場 所】アクロス福岡 7階大会議室
 【主 催】日韓図書館交流2005実行委員会(九州大学附属図書館)・九州大学・釜山国立大学校
 【後 援】日韓友情年2005・福岡県図書館協会・国立大学図書館協会
 【助 成】(財)日韓文化交流基金・九州大学創立八十周年記念事業国際学術交流基金

九州大学と釜山大学校の協力により、「日韓友情年2005」認定記念事業、国際シンポジウム『本が繋ぐ近い都市(まち):日韓図書館交流2005』を開催した。

この国際シンポジウムは、日韓文化交流・学術交流を支えるための地域的な図書館協力を検討するために開いたもので、福岡市と釜山市の図書館関係者、学生、市民など約100名が参加し、活発な意見交換が行われた。

このシンポジウムにおいて、日韓の図書館の現況、日本語資料・韓国語資料の収集状況、協力事業の事例、日韓の図書館を比較した上での要望や新しい図書館協力の動向など、さまざまな情報を共有することができ、また、総括として、今後は人の交流を土台として双方向の知的資源の交換を進めていくこと、来年はこの催しを釜山で行うことが確認された。

このシンポジウムの内容は、『国際シンポジウム「本が繋ぐ近い都市(まち):日韓図書館交流2005」報告書』(九州大学附属図書館2005.12)にまとめられている。



日韓シンポでの総括討論

Program

- 13:00 開会**
 ・今西裕一郎(九州大学附属図書館長、九州大学理事・副学長)
 ・朴鍾喜(釜山大学校図書館長)
- 13:40 ゲストスピーチ**
 ・徐賢燮(九州大学特任教授、前在福岡大韓民国総領事)
- 13:20 公共図書館:市立図書館における日本語資料・韓国語資料**
 ・元英姫(釜山広域市立市民図書館研修課長)
 ・佐藤晋(福岡市総合図書館国際資料専門員)
- 14:00 大学図書館:留学生のための母国語資料サービスと日韓ILL/DD**
 ・金正南(釜山大学校図書館情報運営課司書)
 ・兵藤健志(九州大学附属図書館利用支援課司書)
- 15:00 学校図書館・専門図書館:学校図書館の現状・専門図書館の事例**
 ・金淑貞(釜山広域市教育庁視学官)
 ・山崎三枝(福岡アジア都市研究所都市政策資料室司書)
- 15:40 市民からみた日韓の図書館**
 ・姜昌賢(韓日経済研究所代表)
- 16:00 IFLA2006, Seoul:新たな日韓図書館協力の契機**
 ・宮澤彰(国立情報学研究所学術研究情報研究系研究主幹)
- 16:15 総括討論・質疑応答**
 進行:松原孝俊(九州大学韓国研究センター教授)
- 17:00 閉会**
- 17:30 交流会**

図書館間交流協定

九州大学附属図書館は、ソウル大学校中央図書館、慶北大学中央図書館、台湾大学図書館と、図書館間交流協定を結んでいる。平等と互惠を基本とした交流と相互理解を深めることを目的とし、相互の図書館利用、刊行物の交換、共同開発計画、図書館職員の交流等について協力を推進している。

ソウル大学校中央図書館から客員図書館員を受入

ソウル大学校中央図書館との間に平成15年5月に取り交わした業務交流に関する覚書の趣旨に基づき、平成17年2月28日から8月26日までの6ヶ月間、ソウル大学校中央図書館の李成烈氏を客員図書館員として迎えた。李氏は、日本における資料の保存と管理や図書館間協力をテーマに研修を行い、その一環として、九州地区内および東京地区の大学図書館等を訪問して、資料保存の取り組み状況の実地調査をおこなったほか、附属図書館で行われた『韓流・漢流図書館事情－海外図書館視察報告』で韓国図書館事情について講演するなど、業務レベルでの日韓図書館交流の実践にあたった。



資料保存実習を行う李氏（写真中央）

交流協定図書館との資料交換（平成17年度）

- 8月 九州大学→ソウル大学校
九州大学出版会図書 33冊を寄贈
- 10月 ソウル大学校→九州大学
ソウル大学校奎章閣図書 32冊を受贈
- 11月 ソウル大学校→九州大学
大韓民国学術院図書 171冊を受贈

海外との往来

往訪

シンガポールおよびマレーシアの学術図書館・公共図書館

【日程】平成17年12月4日～12月9日

【訪問者】南俊朗（附属図書館研究開発室特別研究員・九州情報大学図書館長）、兵藤健志（同利用支援課）ほか

【訪問先】

大学図書館
Ngee Ann Polytechnic
National University of Singapore (NUS)
Temasek Polytechnic ほか

公共図書館
Bukit Batok Community Library
National Library Board
Library Supply Centre ほか

オーストラリアの大学図書館

【日程】平成18年2月22日～28日

【訪問者】有川節夫（附属図書館長）、濱崎修一（同事務部長）、昌子晝信（同図書館企画課）ほか

【訪問先】The University of Queensland
Queensland University of Technology
The University of New South Walesほか

来訪

韓国・全国国公立大学教授会一行（58名）

平成17年7月6日 中央図書館の見学

韓国新羅大学 文献情報学科学学生一行（約40名）

平成17年11月7日 中央図書館で図書館概要説明、貴重書庫ほか図書館見学
筑紫分館でRFID、自動書庫の見学

韓国東国大学（7名）

平成18年2月6日 中央図書館、理系図書館の見学

関連行事

「図書館進化への息吹：シンガポール図書館視察報告」を開催

12月の海外視察の成果を伝える報告会が、平成18年2月2日（木）、九州大学附属図書館で開催され、リラックスできる生活空間としての「Lifestyle図書館」の概念を軸として、シンガポール・マレーシアで訪問した各館の概要や新しい試みの事例が報告された。

まず、大学図書館の視察報告として、兵藤健志氏が、「図書館では静粛に」という固定概念から離れて、スペースをはっきり分けることで快適なサービス空間を実現している事例を述べるとともに、NUS図書館職員の with passion and a smile の精神を紹介し、職員一人一人の意識を高めることの大切さを指摘した。

公共図書館については、前九州大学附属図書館研究開発室専任講師で、現在北海道大学助教授の喜田拓也氏が、RFIDによる資料管理のほか、自動貸出機、電子マネー・クレジットカードによる料金支払等、質の高いサービスを提供するための技術が積極的に導入されている事例を紹介した。

最後に、南俊朗氏が報告を総括して、シンガポールでは知識立国の要として図書館の重要性が強く認識されていることを指摘した。また、海外視察の成果を取り入れてきたこれまでの研究開発室の取り組みを振り返り、今後の課題として、Customer satisfaction（顧客満足度）を高めるために、館内マーケティングやデータ分析技術の開発が重要であることを強調した。

研究開発室活動



ターニングポイントを迎えた研究開発室

情報技術をめぐる環境の変化や教育・研究活動の高度化、多様化、学際化に柔軟かつ確に対応すべく、附属図書館に研究開発室を設置して、平成17年度で10年目となる。この節目の年に、研究開発室の活動にいくつかの転換が図られた。

一つめは、個々の研究開発事項に附属図書館の若手職員を配置し、サブジェクトライブラリアン育成の足がかりとしたことである。職員は、調査・実験に参加したり、室員とともに海外視察を行ったりと、スキルアップを図る上での重要な実績をつんでいる。

二つめとして、これまで『附属図書館研究開発室の概要』としてとりまとめていた研究開発の成果を、『附属図書館研究開発室年報』として、リニューアル創刊した。研究開発にかかる種々の成果を論文という形で掲載することで、活動成果をより明確にしていくとともに、職員の論文発表の場となることを目的としている。

三つめとして、これまで研究開発事項として継続してきた「古書・文書データベース構築に関する調査研究」を、記録資料館の「古文書・古記録部門」として発展的に解消させ、他の部門と連携しながら、記録資料としての統合的な研究をより組織的に進めていくことにした。

研究開発室は、これまでの評議会決定による時限付の設置から、18年度より附属図書館の常置組織となり、次のステップに進むことになる。

〈平成17年度研究開発事項〉

総括

研究開発の総括	今西裕一郎(附属図書館長、理事・副学長)	大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う学習・教育・研究支援活動の改善に関する事項のうち、九州大学附属図書館研究開発室において行う課題を指定し総括する。
---------	----------------------	---

I 将来計画に関する分野

統合移転後の新図書館計画に関する調査研究	平井 康之(芸術工学研究院助教授)	元岡地区新キャンパスに計画する新図書館について、建築及び設備の面から、理想的な大学図書館を建設するための調査研究を行う。
海外の大学図書館に関する調査研究	松原 孝俊(韓国研究センター教授)	海外、特にアジア諸国の大学図書館との図書館間交流の推進についての調査研究を行う。
図書館職員の専門性育成に関する調査研究	竹村 則行(人文科学研究院教授) 西村 重雄(法学研究院教授)	図書館職員の専門性について明らかにし、その育成方法について調査研究するとともに、本学におけるサブジェクト・ライブラリアン制度のあるべき姿について調査研究を行う。

II 電子図書館システムに関する分野

電子図書館システムの研究開発	荒木啓二郎(副館長、システム情報科学研究院教授) 池田 大輔(研究開発室助教授) 南 俊朗(研究開発室特別研究員 九州情報大学教授)	電子図書館システムのための基礎技術及び実用化に関する調査研究を行う。特に、RFIDタグを利用した図書館の自動化に関する研究、e-Learningシステムの環境整備に関する研究、各種の検索システムに関する研究等に関して、要素技術からその適用システムに至る研究開発を推進する。
RFIDタグによる図書館運用に関する調査研究	藤崎 清孝(システム情報科学研究院助教授)	図書館業務の自動化・省力化等を推進する手段の一つとして、RFIDタグを利用した図書館システムの実用化に関する調査研究を行う。
レファレンス事例検索システムに関する調査研究	竹田 正幸(システム情報科学研究院教授)	附属図書館におけるレファレンス業務支援のために、過去の事例を蓄積し、サービス提供に役立てるためのレファレンス事例検索システムの構築に関する調査研究を行う。九州地区内の大学図書館との連携及び国立国会図書館が推進するレファレンス共同データベース実験事業との連携をも考慮しつつ、今後の電子図書館システムの構成要素のひとつとしてのシステム化を推進する。

III コンテンツ形成・発信に関する分野

図書館における著作権問題に関する調査研究	黒澤 節男(附属図書館研究開発室特別研究員)	図書館における著作権問題を多角的に調査研究するとともに、今後、電子図書館システムの構築や図書館資料の電子化・発信を行う場合の個別事例に係る著作権問題について調査研究を行う。
貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する調査研究	今西裕一郎(附属図書館長、理事・副学長)	本学が所蔵する貴重資料等の画像データベース及び書誌データベース作成に当たっての対象資料の選定、データ作成方法、検索システム、表示方法等についての調査研究を行う。
貴重古医書のデータベース化及び医史的、書誌学的な調査研究	Wolfgang Michel(言語文化研究院教授)	保存図書館に所蔵される医学部蔵書の内、16-19世紀の古医書について、書誌データベース及び画像データベースの作成及び公開方法についての調査研究を行うとともに、コレクションとしての医史的及び書誌学的な調査研究を行う。

2005年度の研究開発室の活動の詳細については、『附属図書館研究開発室年報2005/2006』として別に発行する。

理系図書館でICカードによる実証実験中

本学に導入予定の全学共通ICカードは、1枚で複数のサービスを受けられることが特徴である。例えば、図書館と研究室の鍵を同じカードで利用でき、さらに公共交通機関にも適用範囲を広げようとしている。本格導入を前に、理系図書館では貸出と入館をICカードと携帯電話で利用する実証実験が進行中である。この仕組みでは、利用者の個人情報を図書館が保持せず、個人情報と行動履歴を分離することが可能となり、プライバシー保護に貢献する新たな方法として注目すべきものである。

ビジョンブック『ユビキタス時代の大学図書館サービス』を公開

NTT、NTT西日本、NTTデータとともに「ユビキタス図書館研究会」を立ちあげ、ユビキタス時代における大学図書館の在り方について検討を行った。その成果は、『ビジョンブック『ユビキタス時代の大学図書館サービス』』としてまとめられ、Web上で公開中である。この中では研究開発中の仮想書架や読書録サービスといった新たなサービスの位置づけや是非を議論し、新たな電子図書館モデルとして捉えなおした。

職員研修



附属図書館では、図書館専門職員としての知識の深化及び能力・資質の向上を図るため、外部機関の研修への積極的参加をすすめるほか、館内においても、独自の研修をおこなっている。平成17年度については、以下の研修をおこなった。

図書系職員初任者研修

【日 程】平成17年5月16日～27日
【対 象】平成16、17年度採用の図書系職員

図書館専門職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、図書系業務遂行に必要な基礎知識を習得し、以後の自己研鑽に資することを目的として、実務担当者を中心とした講師により、以下の18コマの講義・実習が行われた。これらの講義は、初任者以外の職員も多数聴講し、自己研鑽を深める契機となっている。

5/16 図書館サービスの最新トピックス
閲覧サービスの概要・館内案内
閲覧カウンター業務・閲覧サービス実習

5/17 情報検索講習会
図書館組織体制
附属図書館の将来構想

5/18 著作権の知識
ILL/DDDサービスの実際

5/20 貴重資料の取り扱いと資料保存
保存容器の作成（実習）

5/24 日本古典文学の活字本
財務管理の知識

5/25 図書の発注・受入・目録
雑誌資料の契約・受入・目録業務に関する基礎知識

5/26 九州大学におけるネットワーク管理とセキュリティ
電子資料の世界

5/27 図書館職員の研修
九州大学附属図書館が目指すもの



初任者研修（資料保存実習）

ラテン語古刊本書誌作成研修会

【実 施】平成17年度4回実施（1992年より継続・途中4年間休会）
【対 象】全学の図書系職員

九大が所蔵するラテン語古刊本について、発表者がその所属する部局の資料を取り上げて報告するゼミ形式の研修会である。発表者が、①タイトルページの日本語訳②資料の時代背景調査③書誌作成について報告し、指導者の西村重雄法学研究院教授に補足説明を受けることにより、参加者全員が共通理解を深めている。17年度からは発表者を複数にしてより多くの人間が携われるようにし、以下の資料を対象として研修を行った。

- 【第1回】「De balneis omnia qua extant apud Gracos, Latinos, et Arabas」
(1553年発行)
- 【第2回】「Q. Curtii Rufi Historiarum libri, accuratissime editi」
(1677年発行)
- 【第3回】「Opera Ambrosii Parei regis primarii et Parisiensis chirurgi」
(1582年発行)
- 【第4回】「Titii Livii Patavini historiarum libri qui extant. Vol.1」(1679年発行)

漢籍講習会

【実 施】平成17年度5回実施（15年度より継続・2年を1サイクルとして実施）
【対 象】全学の図書系職員

中国や日本の伝統文化の根幹をなす漢籍について、その成立と伝播、分類法、文化に果たした役割等について具体的総合的に学び、文系地区の移転に向け、特に九大所蔵の漢籍について理解を深め、漢籍に詳しい図書館職員を養成することを目標としている。第2巡となる平成17年度からは、より具体的で実際的な講習内容に努めた。

- 【第1回】漢籍目録入門（講師：中里見敬 言語文化研究院助教授）
- 【第2回】中国漢代の漢籍（一）（講師：南澤良彦 人文科学研究院助教授）
- 【第3回】中国漢代の漢籍（二）（講師：〃 〃）
- 【第4回】中国唐宋時代の漢籍（一）（講師：静永健 人文科学研究院助教授）
- 【第5回】中国唐宋時代の漢籍（二）（講師：〃 〃）

館内研修「電子ジャーナルとリンクサービスについて」

【日 程】平成17年9月15日 【対 象】全学の図書系職員

昨今急速に変化している電子情報環境について、図書館職員が共通認識を持つことを目的とし、「九州大学の電子ジャーナル」「新・電子ジャーナル集はここが違う！」「きゅうとLinQで変わる情報検索環境」の3本のタイトルで研修を行った。参加した職員は、現在の九大図書館の電子ジャーナルの現状と課題、リンクサービスという新サービスについて、認識を新たにされた。

目録システム地域講習会（国立情報学研究所との共催）

【日 程】平成17年6月15日～17日（図書コース）
平成17年8月3日～5日（雑誌コース）
【対 象】本学及び近隣大学図書館の目録業務担当者

全国総合目録データベースの構成・内容・入力基準の習得を目的とした当講習会では、両コース各16名の受講生が熱心に3日間の講習を受け、実務上での疑問点など多くの質問を講師に投げかけていた。



目録システム地域講習会

統計=利用サービス=



平成17(2005)年度

		中央図書館	医学分館	芸術工学分館	筑紫分館	六本松分館	理系図書館 ^{*1}	文系合同図書室	合 計
年間開館日数	平 日	238	233	229	238	236	114	229	1,517
	土 曜	50	52	34	48	49	22	38	293
	日曜・祝日	62	64	6	0	62	0	0	194
	(日) 合 計	350	349	269	286	347	136	267	2,004
入館者数	教職員	12,530	10,843	2,419	450	3,336	1,290	6,902	37,770
	学 生	325,590	129,090	32,944	40,688	219,518	20,858	20,708	789,396
	学外者	62,808	32,535	1,896	473	4,306	4,315	491	106,824
	(人) 合 計	400,928	172,468	37,259	41,611	227,160	26,463	28,101	933,990
貸出冊数	教職員	7,126	1,739	5,568	932	11,652	676	14,654	42,347
	学 生	66,431	15,696	21,111	4,559	34,247	2,995	33,476	178,515
	学外者	974	528	290	-	-	50	-	1,842
	(冊) 合 計	74,531	17,963	26,969	5,491	45,899	3,721	48,130	222,704
貸出者数	教職員	3,266	1,739	1,860	570	3,835	327	4,834	16,431
	学 生	33,733	9,522	8,641	2,540	18,859	1,667	13,255	88,217
	学外者	645	248	168	-	-	27	-	1,104
	(人) 合 計	37,644	11,509	10,669	3,110	22,694	2,021	18,089	105,752
文献複写件数	学外からの受付(国内)	8,123	27,010	603	-	-	-	-	35,736
	学外からの受付(国外)	64	5	-	-	-	-	-	69
	合 計	8,187	27,015	603	-	-	-	-	35,805
	学外への依頼(国内)	3,583	2,545	461	321	1,384	-	-	8,294
	学外への依頼(国外)	36	12	1	0	0	-	-	49
	(件) 合 計	3,619	2,557	462	321	1,384	-	-	8,343
相互貸借件数	学外からの受付(国内)	1,283	47	168	36	367	-	-	1,901
	学外からの受付(国外)	0	0	0	0	0	-	-	0
	合 計	1,283	47	168	36	367	-	-	1,901
	学外への依頼(国内)	932	49	101	0	568	-	-	1,650
	学外への依頼(国外)	1	0	0	0	0	-	-	1
	(件) 合 計	933	49	101	0	568	-	-	1,651
レファレンス件数	教職員	567	6,381	65	97	6,075	99	(内訳採取せず)	13,284
	学 生	1,844	3,091	209	89	526	328	//	6,087
	学外者	834	498	78	6	29	60	//	1,505
	合 計	3,245	9,970	352	192	6,630	487	3,390	24,266
	所在調査	770	7,227	82	75	5,434	169	(内訳採取せず)	13,757
	事項調査	357	83	50	0	1,052	4	//	1,546
	利用指導・その他	2,118	2,660	220	117	144	314	//	5,573
	(件) 合 計	3,245	9,970	352	192	6,630	487	3,390	24,266

(*1) 理系図書館は2005年10月開館以降の数値

電子ジャーナルの利用 主要パッケージのフルテキストダウンロード数

2005.1.1-12.31

パッケージ名称	利用件数	パッケージ名称	利用件数
American Chemical Society (ACS)	252,724	Nature Site License	84,651
American Institute of Physics (AIP)	29,454	ProQuest Academic Research Library	6,500
American Physical Society (APS)	44,164	ProQuest Health & Medical Complete	4,253
Blackwell Synergy Full Collection	53,385	SpringerLink	43,630
Elsevier Science Direct Freedom Collection	762,556	Taylor & Francis	9,745
Journals@Ovid	5,479	Wiley InterScience	90,749
Karger	8,692	合計	1,395,982

情報検索サービスの利用 各サービス・文献情報データベースの検索回数

平成17(2005)年度

種別	サービス名	分野	検索回数	種別計
きゅうとサービス	きゅうとOPAC (所在情報)		1,387,468	2,051,684
	きゅうとE-Journals (電子ジャーナル集)		460,871	
	きゅうとLinQ (リンクリゾルバ)		203,345	
文献情報データベース	Web of Science (Web of Knowledge)	全分野	276,488	1,012,851
	SciFinder Scholar	化学	157,369	
	医中誌Web	医学	143,727	
	MEDLINE (OVID)	医学	125,791	
	MAGAZINEPLUS (NICHIGAI WEB)	全分野(国内)	123,368	
	Current Contents (OVID)	全分野	95,686	
	PsycINFO (OVID)	心理学	40,784	
	Scopus	全分野	20,776	
	EBM Reviews (OVID)	医学	10,156	
	BOOKPLUS (NICHIGAI WEB)	全分野(国内)	7,580	
	Econlit (OVID)	経済学	4,659	
	CINAHL (OVID)	看護学	3,513	
ERIC (OVID)	教育学	2,954		
インパクトファクター	JCR Science Edition (Web of Knowledge)		41,280	41,280
事典類	Gale Virtual Reference Library		3,283	6,341
	ネットで百科		1,691	
	作家・執筆者人物ファイル (NICHIGAI WEB)		1,367	

学内配送サービスの利用 図書の貸出・返却に学内配送システムを利用した回数

平成17(2005)年度

からへ	中央図書館	文系合同図書室	医学分館	六本松分館	芸術工学分館	筑紫分館	理系図書館	計
中央図書館		453	445	3,388	945	643	173	6,047
文系合同図書室	322		114	1,576	406	35	21	2,474
医学分館	434	115		276	89	55	33	1,002
六本松分館	2,741	1,206	258		716	137	103	5,161
芸術工学分館	846	298	114	723		128	43	2,152
筑紫分館	480	23	51	145	98		37	834
理系図書館	238	24	34	125	48	63		532
計	5,061	2,119	1,016	6,233	2,302	1,061	410	18,202

統計=基盤サービス=



図書・雑誌(冊子体)の受入

平成17(2005)年度

		図書受入冊数 (冊)			雑誌受入種類数(冊子体) (種)		
		和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	計
中央図書館	中央図書館	7,015	1,547	8,562	2,451	303	2,754
	理学研究院	288	872	1,160	455	501	956
	数理学研究院	151	1,461	1,612	64	497	561
	農学研究院	510	3,168	3,678	2,055	1,060	3,115
	小計	7,964	7,048	15,012	5,025	2,361	7,386
医学分館	医学分館	846	694	1,540	1,010	837	1,847
	医学研究院	337	414	751	24	15	39
	歯学研究院	10	46	56	19	46	65
	薬学研究院	7	9	16	6	20	26
	病院(医・歯・生医研)	159	134	293	229	258	487
	小計	1,359	1,297	2,656	1,288	1,176	2,464
芸術工学分館		2,825	344	3,169	493	153	646
筑紫分館	筑紫分館	475	242	717	227	46	273
	総合理工学研究院	420	28	448	47	10	57
	応用力学研究所	4	4	8	343	290	633
	先導物質化学研究所	32	15	47	312	250	562
	健康科学センター	62	6	68	250	22	272
	小計	993	295	1,288	1,179	618	1,797
六本松分館	六本松分館	3,862	378	4,240	871	112	983
	比較社会文化研究院	2,292	978	3,270	192	164	356
	言語文化研究院	1,377	648	2,025	37	63	100
	小計	7,531	2,004	9,535	1,100	339	1,439
理系図書館	理系図書館	3,209	528	3,737	78	6	84
	工学研究院	848	825	1,673	41	42	83
	システム情報科学研究院	411	504	915	99	106	205
	人環 都市・建築学部門	282	242	524	254	270	524
	小計	4,750	2,099	6,849	472	424	896
文系合同	文学研究院	6,763	1,602	8,365	3,312	437	3,749
	教育学部	885	419	1,304	877	149	1,026
	法学研究院	4,534	2,139	6,673	665	349	1,014
	経済学研究院	1,958	1,341	3,299	661	317	978
	小計	14,140	5,501	19,641	5,515	1,252	6,767
記録資料館		263	3	266	80	0	80
情報基盤センター		53	583	636	34	25	59
合計		39,878	19,174	59,052	15,186	6,348	21,534

(注1) 図書受入冊数及び雑誌受入種類数は、図書館・室の単位で大区分を行い、その中を部局・附置研究所・全国共同利用施設の単位で展開している。学内共同教育研究施設及び学内共同利用施設等の受入数については、それらの施設の事務処理を行う館・室の項目に計上している。

(注2) 図書受入冊数は、資産として受入された図書の冊数である。

(注3) 理系図書館については、9月までの工学部等の数値を引き継いだものとして、平成17年度までは「人環 都市・建築学部門」の統計をここに計上する。

電子ジャーナル

アクセス可能な電子ジャーナル(無料誌含む) 平成18(2006)年5月1日現在

純タイトル数 24,830

契約タイトル数

平成18(2006)年度

出版社等	タイトル数	出版社等	タイトル数
American Chemical Society (ACS)	35	LexisNexis: Academic & lexis.com	4,292
American Institute of Physics (AIP)	12	Lippincott Williams and Wilkins (LWW)	12
American Physical Society (APS)	8	Nature Publishing Group	17
American Society of Mechanical Engineers (ASME)	22	Oxford University Press	166
Association for Computing Machinery: ACM Portal	354	ProQuest Academic Research Library	2,311
Blackwell Synergy	758	ProQuest Health & Medical Complete	685
Cambridge University Press	13	Science	1
Cell Press	4	SourceOECD	31
EBSCOhost: Business Source Premier	9,257	SpringerLink	1,162
Elsevier Science Direct	1,587	Taylor & Francis	1,255
IEEE: ASPP Online, POP Online	255	Thieme	3
Institute of Physics (IOP)	12	University of Chicago Press	28
Journals@Ovid	9	Wiley InterScience	528
JSTOR: Arts & Sciences Collection I-II	244	World Scientific Publishing	14
Karger	71	その他	427
		合計	23,573

(注) 契約タイトル数は、出版社間の重複を含む延べタイトル数である。

蔵書数

平成18(2006)年3月31日現在

	図書所蔵冊数 (冊)			雑誌所蔵種類数 (種)		
	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	計
中央図書館	533,627	410,465	944,092	18,052	13,398	31,450
医学分館	136,218	203,967	340,185	3,172	8,323	11,495
芸術工学分館	107,417	49,381	156,798	1,758	963	2,721
筑紫分館	61,394	76,525	137,919	1,499	1,192	2,691
六本松分館	302,493	153,369	455,862	2,813	1,696	4,509
理系図書館	179,595	226,969	406,564	2,495	5,016	7,511
文系合同図書室	725,051	566,417	1,291,468	16,067	7,812	23,879
記録資料館	45,337	3,838	49,175	873	23	896
情報基盤センター	2,564	7,869	10,433	41	98	139
合計	2,093,696	1,698,800	3,792,496	46,770	38,521	85,291

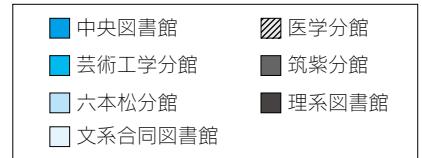
(注) 図書所蔵冊数は、資産として登録された図書の冊数である。

統計=推移と分析=

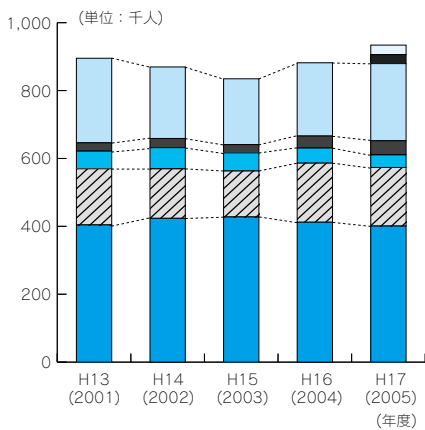


■ 利用サービスの推移

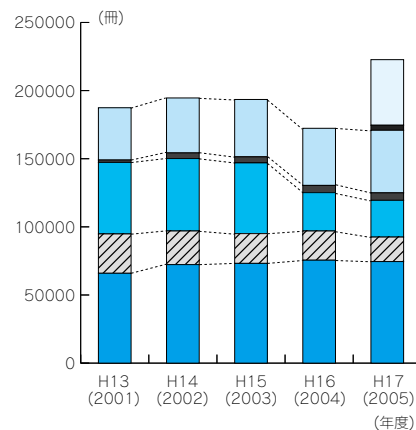
平成17年度は、文系合同図書室の発足、理系図書館の開館により、利用サービス統計に新たな要素が加わった。電子的サービスの充実により、非来館型の利用はますます増加しており、それは電子ジャーナルと情報検索サービスの利用件数の増加に顕著に表れている。一方、入館者数にはそれほどの減少傾向は見られず、学習・教育・研究の場としての図書館の有用性も減じていないことを表している。



入館者数



貸出冊数

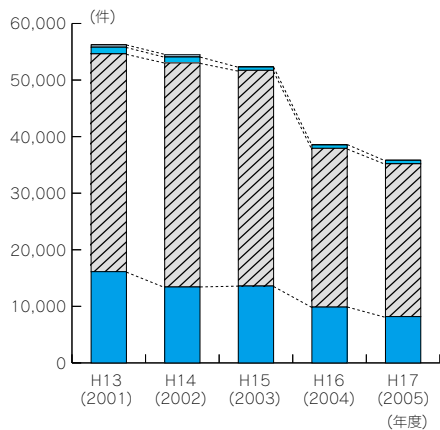


平成17年度は、文系合同図書室(4月～)、理系図書館(10月～)を新たに加算した。

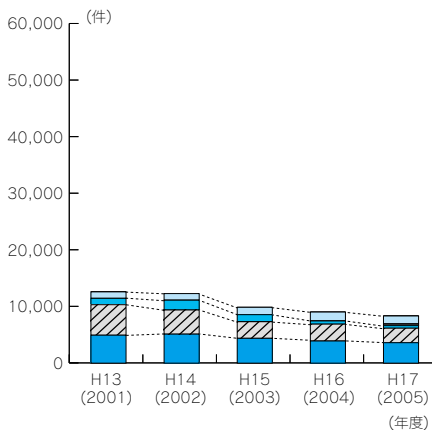
入館者数は、全体としてはほぼ横ばいであるが、芸術工学分館が若干減少している。一方、筑紫分館は16年の開館以降、利用者が増加していることが確認できる。

貸出冊数は、前年度とほぼ同様であるが、六本松分館の漸増が確認できる。また、筑紫分館も年々増加傾向にある。

文献複写件数【受付】



文献複写件数【依頼】

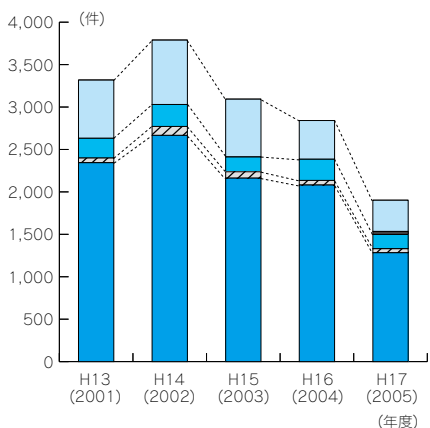


学外との文献複写は、受付、依頼ともに減少している。これは、電子ジャーナルの普及に伴って見られるようになった全国的な傾向である。

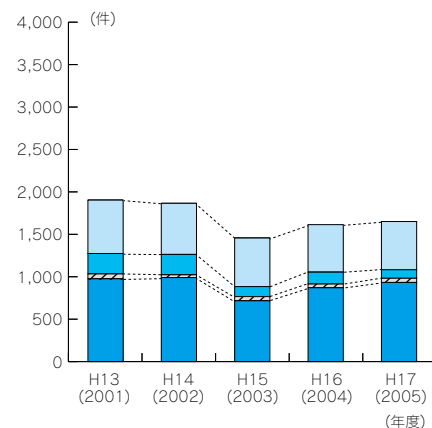
受付件数は、5年間で中央図書館が半減、医学分館が2/3に減少している。これは、主に、冊子体の雑誌の講読中止によるタイトル数減少と、16年度からの文献複写料金改定によるものと思われる。また、各大学における電子ジャーナルのアクセス環境が向上していることも予想される。

依頼件数も、全体として減少傾向にあり、特に医学分館では5年前から半減している。これは、九州大学からアクセスできる電子ジャーナル数の増加に伴うものであろう。

相互貸借件数【受付】



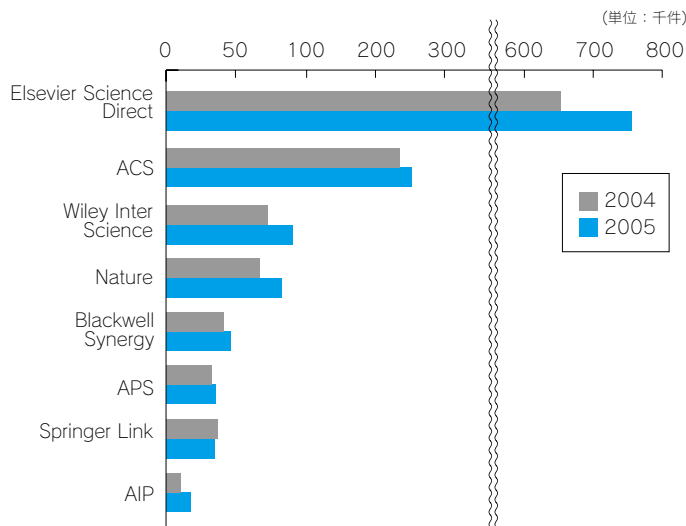
相互貸借件数【依頼】



受付(学外機関への図書貸出)については、工学系資料の移転作業に伴う提供サービス停止により、17年度、その窓口である中央図書館の件数が減少した。

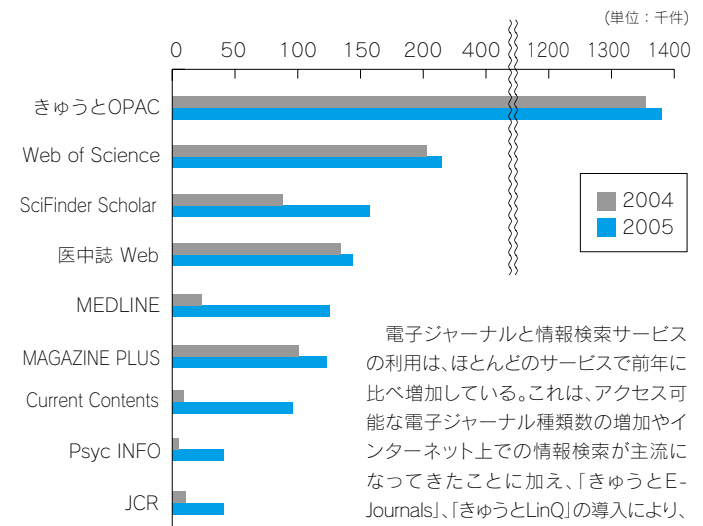
電子ジャーナルと情報検索サービスの利用の推移

電子ジャーナルの利用 主要パッケージのフルテキストダウンロード件数



情報検索サービスの利用

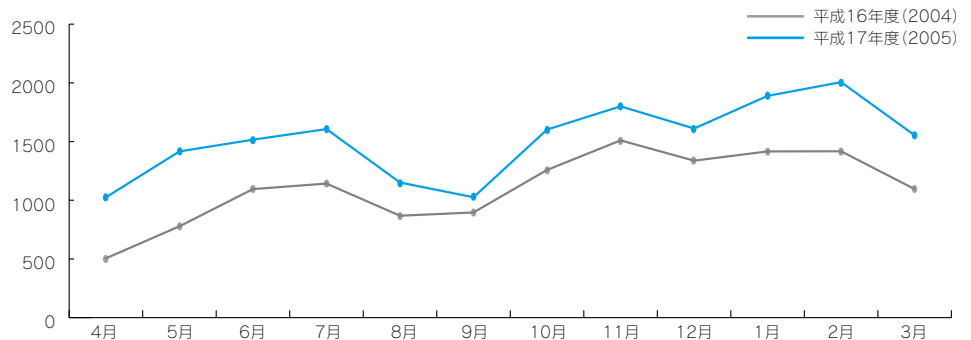
主要データベースの検索回数



電子ジャーナルと情報検索サービスの利用は、ほとんどのサービスで前年に比べ増加している。これは、アクセス可能な電子ジャーナル種類数の増加やインターネット上での情報検索が主流になってきたことに加え、「ぎゅうとE-Journals」、「ぎゅうとLinQ」の導入により、電子リソースへのアクセスが容易になったためと考えられる。

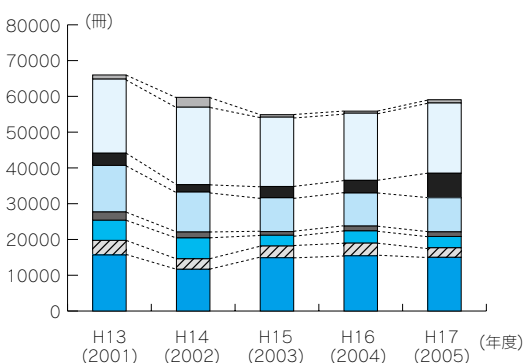
学内配送サービス利用件数

前年同月比で各月とも3割程度利用が伸びている。これは、運用2年目にあたり「どの図書館でも借りられる」「どの図書館でも返せる」学内配送サービスの認知度が高まったことに加え、「ぎゅうとMyLibrary」によるオンラインでの配送申し込みが可能になったためと思われる。

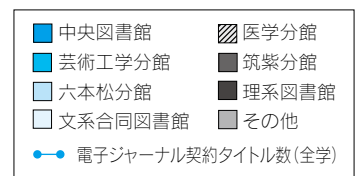
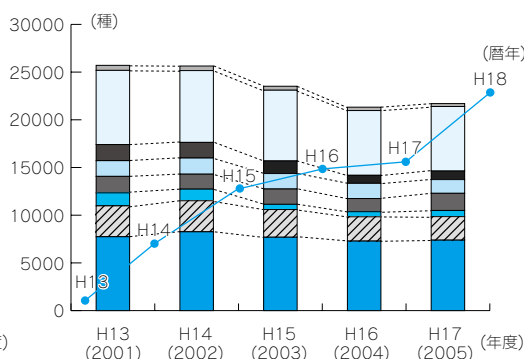


資料受入の推移

図書受入冊数



雑誌受入種類数



雑誌受入種類数は、電子ジャーナル契約タイトル数が冊子体の雑誌の契約タイトル数を初めて上回った。

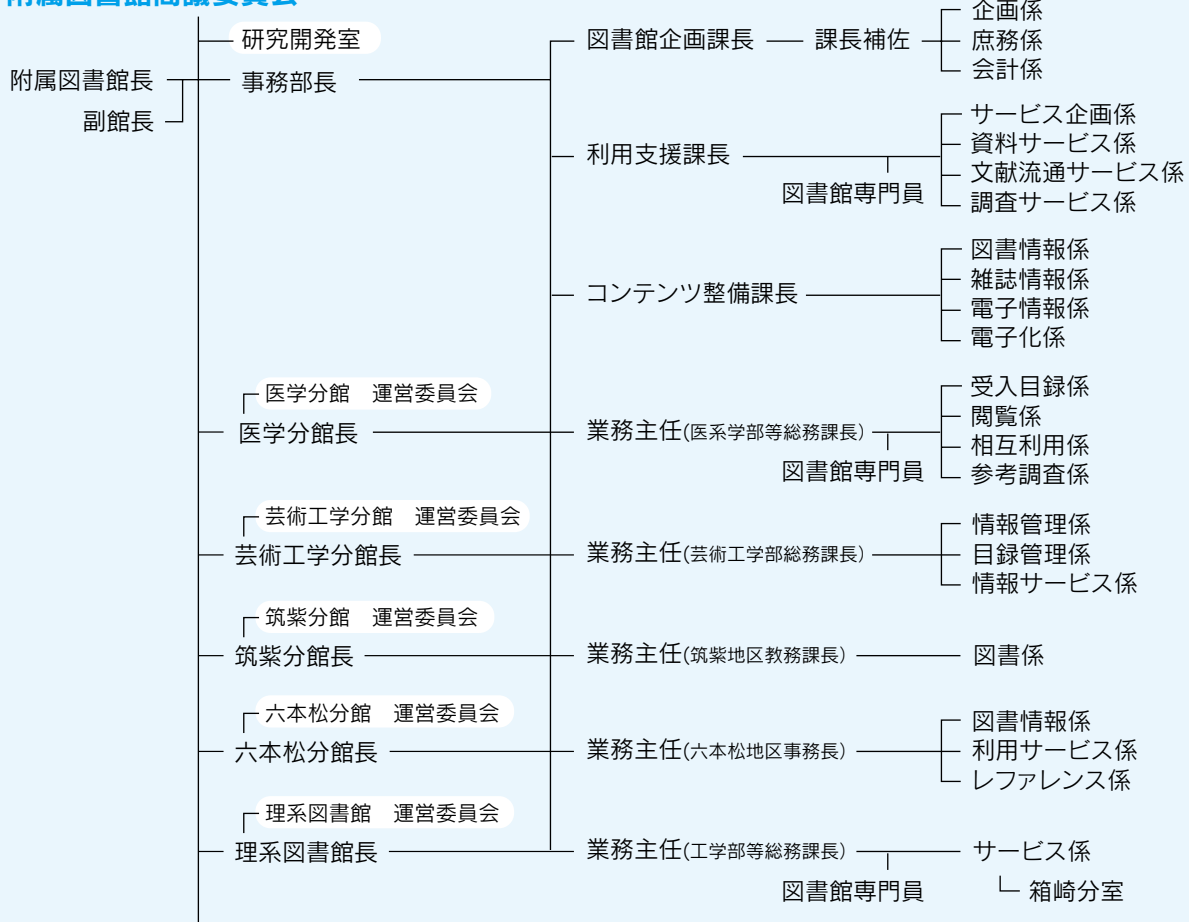
なお、理系図書館の16年度までの数値は、工学研究院・システム情報科学研究所の受入冊数を合算した数値である。

組織

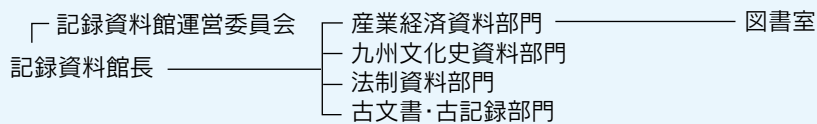
中央図書館及び分館

(平成17年10月1日現在)

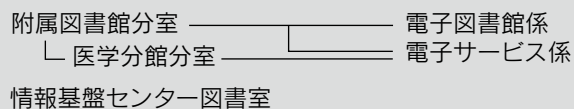
附属図書館商議委員会



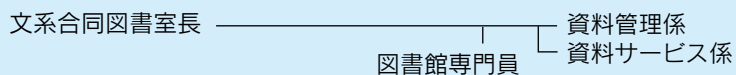
付設記録資料館



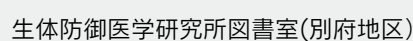
情報基盤センター



貝塚地区事務所



医系学部等事務所



附属図書館長・副館長・分館長等

平成17(2005)年度

附属図書館長	今西裕一郎	理事・副学長・人文科学研究院 教授(～2005.11.6)
	有川 節夫	理事・副学長(2005.11.7～)
副 館 長	荒木啓二郎	システム情報科学研究院 教授
医学分館長	野瀬 善明	医学研究院 教授
芸術工学分館長	大西 修也	芸術工学研究院 教授(～2005.9.30)
	片野 博	芸術工学研究院 教授(2005.10.1～)
筑紫分館長	経塚 雄策	総合理工学研究院 教授
六本松分館長	田島 松二	言語文化研究院 教授
理系図書館長	山本 雄二	工学研究院 教授(2005.10.1～)
記録資料館長	荻野 喜弘	経済学研究院 教授
事務部長	濱崎 修一	

附属図書館商議委員会

平成17(2005)年度

委 員 長	今西裕一郎	理事・副学長・附属図書館長(～2005.11.6)		
	有川 節夫	理事・副学長・附属図書館長(2005.11.7～)		
委 員	荒木啓二郎	システム情報科学研究院 教授・副館長	松井 卓	数理学研究院 教授
	野瀬 善明	医学研究院 教授・医学分館長	佐伯 修	〃
	大西 修也	芸術工学研究院 教授・芸術工学分館長(～2005.9.30)	石橋 達朗	医学研究院 教授
	片野 博	芸術工学研究院 教授・芸術工学分館長(2005.10.1～)	吉村 恵	〃
	経塚 雄策	総合理工学研究院 教授・筑紫分館長	中西 博	歯学研究院 教授
	田島 松二	言語文化研究院 教授・六本松分館長	山下 喜久	〃
	山本 雄二	工学研究院 教授・理系図書館長(2005.10.1～)	植田 正	薬学研究院 教授
	荻野 喜弘	経済学研究院 教授・記録資料館長	財津 潔	〃
	村上 和彰	システム情報科学研究院 教授・情報基盤センター長	楠田 哲也	工学研究院 教授
	柳原 正治	法学研究院 教授・留学生センター長	新海 征治	〃
	柴田 篤	人文科学研究院 教授	深田 悟	芸術工学研究院 教授
	濱田 耕策	〃	清須美匡洋	〃
	吉田 昌彦	比較社会文化研究院 教授	赤岩 芳彦	システム情報科学研究院 教授
	清水 靖久	〃	黒木 幸令	〃
	關 一敏	人間環境学研究院 教授	梶原 浩	総合理工学研究院 教授
	望田 研吾	〃	益田 光治	〃
	熊谷 健一	法学研究院 教授(～2005.6.30)	久原 哲	農学研究院 教授
	酒匂 一郎	法学研究院 教授(2005.7.1～)	鈴木 宣弘	〃
	木佐 茂男	法学研究院 教授	谷 憲三郎	生体防御医学研究所 教授
	加来 祥男	経済学研究院 教授	花田 和明	応用力学研究所 教授
	濱砂 敬郎	〃	三島 正章	先端物質化学研究所 教授
	小谷 耕二	言語文化研究院 教授	山本 和彦	健康科学センター 教授
	田中 俊明	〃	濱崎 修一	事務部長
	宮原 三郎	理学研究院 教授		
	石黒 慎一	〃		

人事

学外へ転出

	異動後	異動前
4. 1 片山 淳	京都大学附属図書館 情報サービス課長	情報サービス課長
4. 1 服部 綾乃	国立情報学研究所開発・ 事業部コンテンツ課	サ) 参考調査掛
4. 1 林田 和政	九州工業大学 附属図書館専門員	法学部図書掛長
4. 1 三木 崇史	香川大学附属図書館	経済学部図書掛

中央図書館

	異動後	異動前
4. 1 濱崎 修一	事務部長	情報管理課長
4. 1 末次美知夫	図書館企画課長	広島大学図書館部 学術情報マネジメント課長
4. 1 菊池 重良	企) 課長補佐	管) 課長補佐
4. 1 松本 孝文	企) 図書館専門員 理系図書館準備室長	シ) 図書館専門員
4. 1 昌子 喜信	企) 企画係長	管) 図書情報第二掛長
4. 1 堀 優子	企) 企画係	管) 図書情報第二掛
4. 1 大村 明美	〃	シ) データベース掛 (採用)
4. 1 保田 秀人	企) 企画係事務補佐員 (農場・演習林庶務係長)	管) 庶務掛長
4. 1 野中 準二	企) 庶務係長	学務部学生生活課 課外活動掛長
4. 1 砂入 りえ	企) 庶務係	管) 庶務掛
4. 1 海津佳寿美	〃	管) 庶務掛(育児休業中)
4. 1 柴田 勝美	企) 会計係長	管) 会計掛長
4. 1 福田 聡美	企) 会計係	管) 会計掛
4. 1 柴田 照代	企) 会計係事務補佐員	管) 会計掛事務補佐員
4. 1 甲斐 重武	利用支援課長	情報システム課長
4. 1 井上 久宏	利) 図書館専門員	医) 図書館専門員
4. 1 河上 章彦	利) サービス企画係長	サ) 情報サービス第二掛長
4. 1 柴田とみ子	利) サービス企画係 事務補佐員	サ) 相互利用掛事務補佐員
4. 1 松永 由紀	利) 資料サービス係長	サ) 情報サービス第一掛長
4. 1 宮岡 大輔	利) 資料サービス係	筑紫分館図書掛
4. 1 一木 隆子	利) 資料サービス係 事務補佐員	サ) 情報サービス第二掛 事務補佐員
4. 1 原田真理子	〃	サ) 相互利用掛事務補佐員
4. 1 末信友実子	〃	〃
4. 1 高田 宏昭	利) 文献流通サービス係長	サ) 相互利用掛長
4. 1 兵藤 健志	利) 文献流通サービス係	サ) 相互利用掛
4. 1 藤原 愛子	利) 文献流通サービス係 事務補佐員	管) 図書情報第一掛 事務補佐員
4. 1 下川 享子	〃	(採用)
4. 1 熊本 房子	〃	管) 雑誌情報掛事務補佐員
4. 1 高田 博子	〃	管) 図書情報第二掛事務補佐員
4. 1 尾上 五男	利) 調査サービス係長	筑紫分館図書掛長
4. 1 片岡 真	利) 調査サービス係	管) 雑誌情報掛
4. 1 相部久美子	利) 調査サービス係 事務補佐員	サ) 情報サービス第一掛 事務補佐員
4. 1 大場 秀穂	コンテンツ整備課長	国立情報学研究所国際・ 研究協力部広報普及課長
4. 1 井ノ上俊哉	コ) 図書情報係長	管) 図書情報第一掛長
4. 1 山崎 法子	コ) 図書情報係	管) 図書情報第一掛
4. 1 山口 良子	〃	〃
4. 1 牧瀬ゆかり	〃	医) 受入目録掛
4. 1 阿部 千宏	コ) 図書情報係事務補佐員	管) 図書情報第一掛事務補佐員
4. 1 稲益眞智子	〃	管) 図書情報第二掛事務補佐員
4. 1 山田恵津子	〃	〃
4. 1 森永 恵子	〃	サ) 相互利用掛事務補佐員
4. 1 藤原 園江	〃	管) 図書情報第二掛事務補佐員

異動後

	異動後	異動前
4. 1 天野 美保	コ) 図書情報係事務補佐員	管) 雑誌情報掛事務補佐員
4. 1 渡辺 優子	〃	サ) 情報サービス第一掛事務補佐員
4. 1 大瀧 礼二	コ) 雑誌情報係長	鹿児島大学附属図書館桜ヶ丘分館
4. 1 別府 妙子	コ) 雑誌情報係	管) 雑誌情報掛
4. 1 轟 朋子	〃	〃
4. 1 金丸委津子	コ) 雑誌情報係事務補佐員	管) 雑誌情報掛事務補佐員
4. 1 今泉登美子	〃	〃
4. 1 長野 玲奈	〃	〃
4. 1 遠藤 愛	〃	サ) 情報サービス第二掛事務補佐員
4. 1 渡邊由紀子	コ) 電子情報係長	管) 雑誌情報掛長
4. 1 星子 奈美	コ) 電子情報係	六) 受入掛
4. 1 川元 亜矢	コ) 電子情報係事務補佐員	サ) 相互利用掛事務補佐員
4. 1 田中由紀子	コ) 電子化係長	シ) データベース掛長
4. 1 小野真由美	コ) 電子化係	シ) 電子情報掛
4. 1 山根 泰志	〃	管) 図書情報第一掛
4. 1 吉田 陽子	コ) 電子化係事務補佐員	シ) データベース掛事務補佐員
4. 1 長野 心み	〃	〃
4. 1 荻原 昭子	〃	〃
10. 1 田中 愛子	利) 資料サービス係 事務補佐員	(採用)
10. 1 一木 隆子	コ) 図書情報係事務補佐員 (医系学部等事務部 学術協力課研究支援係)	利) 資料サービス係事務補佐員
10. 1 山田恵津子	〃	コ) 図書情報係事務補佐員
11. 6 今西裕一郎	(任期滿了)	附属図書館長
11. 7 有川 節夫	附属図書館長	
11. 7 荒木啓二郎	附属図書館副館長(再任)	
11.16 原田真理子	(育児休業)	利) 資料サービス係事務補佐員
11.16 田坂 孝二	利) 資料サービス係 事務補佐員	(採用)
1.31 砂入 りえ	(退職)	庶務係
2. 1 海津佳寿美	企) 庶務係	(職場復帰)
3.31 菊池 重良	(定年退職)	企) 課長補佐

医学分館

	異動後	異動前
4. 1 深川 光郎	図書館専門員	サ) 図書館専門員
4. 1 安永振一郎	受入目録係長	相互利用掛長
4. 1 山田由美子	受入目録係	サ) 情報サービス第一掛
4. 1 立園恵巳子	閲覧係	芸) 目録情報掛
4. 1 今林 安雄	相互利用係長	シ) 電子情報掛長
4. 1 堤 絢子	相互利用係	(採用)
4. 1 篠田 繁寿	参考調査係	情報基盤センター医学分館分室 電子サービス係

芸術工学分館

	異動後	異動前
4. 1 前田 臣夫	業務主任	
4. 1 家田 恵	(農学部生物的 防除研究施設)	情報サービス掛
4. 1 城戸 弦太	目録情報係	香川大学研究協力部情報 図書課
4. 1 上田はるみ	情報サービス係	経済学部図書掛
9.30 大西 修也	(任期滿了)	芸術工学分館長
10. 1 片野 博	芸術工学分館長	
10.30 江尻 純子	(退職)	情報サービス係
10.31 楠 美喜	情報サービス係	(職場復帰)

筑紫分館

	異動後	異動前
4. 1 村上 正範	業務主任	
4. 1 緒方 義信	図書係長	医) 受入目録掛長

六本松分館

	異動後	異動前
4. 1 穴見 一博	図書情報係長	工学部等図書掛長
4. 1 松石 健祐	図書情報係	管) 図書情報第一掛
4. 1 宮地 健士	〃	六) 目録掛
4. 1 古木多恵子	図書情報係事務補佐員	六) 目録掛事務補佐員
4. 1 島田久美子	〃	六) 受入掛事務補佐員
4. 1 本園由美子	〃	〃
4. 1 近藤ゆかり	〃	六) 目録掛事務補佐員
4. 1 田村 雅生	レファレンス係長	六) 目録掛長
4. 1 平良 香	レファレンス係	六) 閲覧掛
4. 1 沖 政広	利用サービス係長	六) 閲覧掛長
4. 1 和田 真澄	利用サービス係事務補佐員	六) 閲覧掛事務補佐員
4. 1 上村千恵子	〃	〃
4. 1 児玉 佳子	〃	シ) データベース掛事務補佐員
4. 1 村山みな代	〃	六) 閲覧掛事務補佐員
4.18 根本 正明	業務主任	
9. 1 森 恵	図書情報係事務補佐員	(採用)
10. 1 島田久美子	(工学部等教務課学生係)	図書情報係事務補佐員

文系合同図書室

4. 1 原田 紀子	文系合同図書室長・ 図書館専門員	文学部図書掛長
4. 1 山崎 弘人	資料管理係長	経済学部図書掛長
4. 1 入江いつ子	資料管理係	法学部図書掛
4. 1 有田 順一	資料管理係・主任	文学部図書掛
4. 1 三坂 雅子	資料管理係	教育学部等図書掛
4. 1 羽賀真記子	〃	医) 閲覧掛
4. 1 三浦つよ子	資料管理係事務補佐員	文学部図書掛事務補佐員
4. 1 小野佳代子	〃	法学部図書掛事務補佐員
4. 1 林 恵子	〃	文学部図書掛事務補佐員
4. 1 中野由紀夫	資料サービス係長	教育学部等図書掛長
4. 1 吉松 直美	資料サービス係	経済学部図書掛
4. 1 秋月 滋	〃	法学部図書掛
4. 1 詭間沙由香	〃	(採用)
4. 1 松本 晴美	資料サービス係事務補佐員	経済学部図書掛事務補佐員
4. 1 永井 謙	〃	法学部図書掛事務補佐員
4. 1 橋本 由美	〃	教育学部等図書掛事務補佐員
4. 1 小林かおる	〃	サ) 情報サービス第二掛事務補佐員
4. 1 黒木 直子	〃	文学部図書掛事務補佐員
10. 1 西島 徹	資料サービス係長	情報基盤センター附属図書館分室 電子サービス係長
3.31 山崎 弘人	(定年退職)	資料管理係長

工学部等総務課図書係

4. 1 堀之口廣教	図書係長	サ) 参考調査掛長
7. 1 吉開 新子	図書係事務補佐員	(採用)
8. 1 岡部せつ子	(工学部等総務課 応用化学部門事務室)	図書係事務補佐員
8. 1 吉武 啓子	図書係事務補佐員	(採用)

理系図書館

10. 1 山本 雄二	理系図書館長	
10. 1 小原 健次	業務主任	
10. 1 松本 孝文	図書館専門員	企) 図書館専門員
10. 1 堀之口廣教	サービス係長	工学部等総務課図書係長
10. 1 大平 久司	サービス係	工学部等総務課図書係
10. 1 伊藤美智子	〃	工学部等総務課航空宇宙部門 図書室
10. 1 保田 秀人	サービス係事務補佐員	企) 企画係事務補佐員

異動後

異動前

10. 1 小西 由利	サービス係事務補佐員	工学部等総務課図書係事務補佐員
10. 1 吉武 啓子	〃	工学部等総務課図書係 事務補佐員
10. 1 吉開 新子	〃	〃
10. 1 青木祐海子	〃	〃
10. 1 野口 美穂	〃	(採用)
3.31 松本 孝文	定年退職	図書館専門員
3.31 大平 久司	退職	サービス係

情報基盤センター

4. 1 澤井 寛	医学分館分室 電子サービス係	医) 参考調査掛
10. 1 中野由紀夫	附属図書館分室 電子サービス係長	文系合同図書室 資料サービス係長
2. 1 澤井 寛	(休職 19.3.31 まで)	医学分館分室電子サービス係

記録資料館

4. 1 荻野 喜弘	記録資料館長	
------------	--------	--

(産業経済資料部門)

4. 1 三輪 宗弘	教授	石炭研究資料センター 教授
4. 1 外川 健一	助教授	石炭研究資料センター 助教授
4. 1 新鞍 拓生	助手	石炭研究資料センター 助手
4. 1 松浦みのり	専門職員	石炭研究資料センター 専門職員
4. 1 小林 伸子	図書室主任	石炭研究資料センター 図書室主任
9.30 外川 健一	退職	助教授
11.30 新鞍 拓生	退職	助手

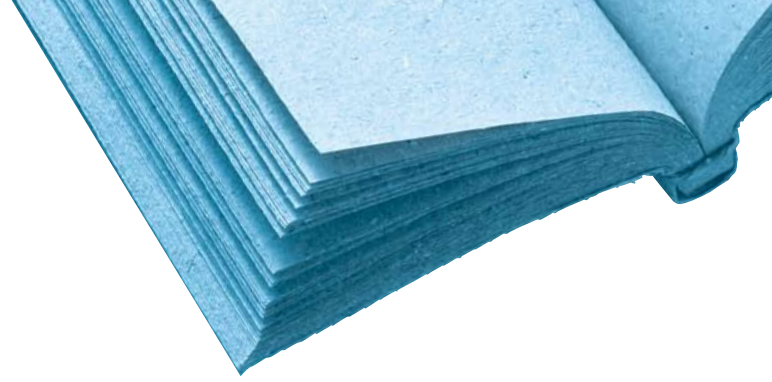
(九州文化史資料部門)

4. 1 坂本 陽子	事務補佐員	総合研究博物館事務補佐員
5. 1 梶嶋 政司	助手	(採用)

企) 図書館企画課
コ) コンテンツ整備課
利) 利用支援課
医) 医学分館
芸) 芸術工学分館
筑) 建築分館
六) 六本松分館
理) 理系図書館

管) 情報管理課
シ) 情報システム課
サ) 情報サービス課

図書館日誌



図書館日誌

	全学・箱崎地区	医学分館	芸術工学分館	筑紫分館	六本松分館	理系図書館
4	1 文系合同図書室の開室 1 記録資料館の設置 1 きゅうとLinQサービス開始 4 記録資料館教員採用面接			31 筑紫分館運営委員会	8-14 図書館ツアー	
5	9 九州大学開学記念行事貴重文物展示「源氏物語の本いろいろ」(~18日) 11 理系図書館名称公募授賞式 11 海外図書館視察報告会「韓流・漢流図書館事情」 13 第1回記録資料館運営委員会 14 記録資料館産業経済資料部門所蔵写真・資料展 (記録資料館産業経済資料部門) 15 九州大学開学記念公開講演会「源氏物語はどのように読まれたか?」 16 図書系職員初任者研修 (~27日) 25 第1回漢籍講習会	13 医学分館周辺除草等環境整備 17 歯学教育コース(JICA)研修員に対する図書館利用オリエンテーション 31 第1回医学分館運営委員会			30 福岡市史編集委員会による櫛垣文庫調査 (~6月3日)	
6	15 目録システム地域講習会 図書コース(~17日) 16 中央図書館周辺除草等環境整備	28 福岡市大学図書館-総合図書館協力推進会議(福岡市総合図書館)				
7	6 韓国・全国国公立大学教授会一行来訪 10 九州地区国立大学法人等職員採用事務系(図書業務)第二次専門試験 14 第2回漢籍講習会 26 第1回ラテン語古刊本書誌作成研修会		27 芸術工学分館運営委員会		21 第1回六本松分館運営委員会	
8	3 目録システム地域講習会 雑誌コース (~5日)					
9	15 館内研修「電子ジャーナルとリンクサービスについて」 29 第3回漢籍講習会	2 医療情報学講習会 22 医学分館周辺除草等環境整備	22 芸術工学分館運営委員会			
10	20 国際シンポジウム「本が繋ぐ近い都市:日韓図書館交流2005」(芥取福岡) 25 第2回記録資料館運営委員会 28 第2回ラテン語古刊本書誌作成研修会			11 24時間開館の実施		1 理系図書館開館記念 3 理系図書館サービス15-16、22-23 伊都オープンキャン 18 理系図書館開館記念セ学研究者のインバクト(ピ
11	2 中央図書館図書選定委員会 7 韓国・新羅大学文献情報学科学学生一行来館 8 中学生の職場体験(~9日) 14 JABEE実地審査 25 第4回漢籍講習会 28 図書館業務システム更新					
12	4 海外図書館視察(シンガポール・マレーシア) (~9日) 9 第3回ラテン語古刊本書誌作成研修会	7 九州地区医学図書館員セミナー(佐賀大学) 26 第2回医学分館運営委員会				
1	12 第3回記録資料館運営委員会 20 理系図書館開館記念特別企画展(伊都国歴史博物館) (~2/19) 27 第5回漢籍講習会	24 第1回医学分館長候補者選定委員会				
2	2 海外視察報告会「図書館進化への息吹:シンガポール図書館視察報告」 6 韓国・東国大学校一行来館(~7日) 12 講演会「蒙古襲来絵詞をめぐって」(伊都国歴史博物館) 14 第4回記録資料館運営委員会 22 海外図書館等視察(オーストラリア・館長等) (~28日) 23 福岡県図書館協会設立記念展示会「源氏物語 -中世から現代まで-」(アクロス福岡) (~28日) 26 講演会「源氏物語はなぜ帝妃の密通を語れたのか」(アクロス福岡)	6 保存図書館での資料整理(旧工学部中央図書室) (~3月24日)	2 芸術工学分館運営委員会 16 旅行ガイドブックコーナー新設			6 自動書庫運用開始 28 平成17年度福岡県公協議会研修会(伊都
3	3 第5回記録資料館運営委員会	27 第2回医学分館長候補者選定委員会(野瀬分館長を三選)			13 第2回六本松分館運営委員会	3 理系図書館披露会

※特に注記のないものは中央図書館

所属する図書館関係団体と九州大学の役割

附属図書館

国立大学図書館協会 理事館
(全国の国立大学図書館 会員館：91)

九州地区国立大学図書館協会 代表館
(九州地区の国立大学図書館 加盟館：11)

九州地区大学図書館協議会 幹事館
(九州地区の国公立大学図書館 加盟館：77)

福岡県図書館協会 副会長(理事)：館長
(福岡県内の大学・公共・学校・専門図書館)

福岡県・佐賀県大学図書館協会
(福岡県・佐賀県内の国公立大学図書館)

医学分館

日本医学図書館協会 評議員館
(全国の医学系および病院図書館・図書室)

九州地区医学図書館協議会
(九州地区の医学系図書館)

年間刊行物

附属図書館発行

『国際シンポジウム

『本が繋ぐ近い都市(まち)：日韓図書館交流2005』報告書
(2005.12) (ISBN:4-903459-00-4)

『九州大学附属図書館要覧2005/2006』
(2005.7)

『九州大学附属図書館研究開発室年報2004/2005』
(2005.6)

『九大生のための情報検索ガイドブック』(九大図・基盤セ共編)
(2005.3)

付設記録資料館産業経済資料部門発行

『石炭研究資料叢書』 No.27
(2006.3)

『エネルギー史研究－石炭を中心として－』 No.21
(2006.3)

	会議	関係団体会議等への出席
	28 第1回電子ジャーナル等検討専門委員会第1次専門部会	21 九州地区国立大学図書館協会総会(熊本市) 22 九州地区大学図書館協議会総会(熊本市)
	12 第2回電子ジャーナル等検討専門委員会第1次専門部会 25 研究開発室会議 25 第3回電子ジャーナル等検討専門委員会第1次専門部会	19 日本医学図書館協会総会(新潟市)(~20日) 19 外国雑誌センター館会議(一橋大学) 20 国立大学図書館協会経営問題委員会(東京大学) 20 国立大学図書館協会理事会(東京大学) 20 福岡県佐賀県大学図書館協議会総会(西南学院大学)
	3 館長会議 14 第1回電子ジャーナル等検討専門委員会 28 第189回附属図書館商議委員会(17年度第1回)	10 中国四国地区国立大学図書館学術情報・図書館事務部長会議(広島大学) 29 福岡県図書館協会理事会(県立図書館) 30 国立大学図書館協会総会(名古屋大学)
	8 第1回全学図書系係長会議 12 理系図書館運営準備会議 15 附属図書館広報委員会	1 国立大学図書館協会マネジメントセミナー(名古屋大学) 23 九州地区国立大学図書館ソフトボール大会(佐賀大学) 25 福岡県内3大学図書館連絡会議
	17 第2回電子ジャーナル等検討専門委員会	
	1 第190回附属図書館商議委員会(17年度第2回) 15 学生用図書選定委員会	9 フレッシュパーソンセミナー(広島大学) 16 福岡県佐賀県大学図書館協会福岡地区研究会(福岡国際大学) 16 九州地区医学図書館協議会総会(福岡市) 29 国立七大学附属図書館協議会(京都大学)
式典開始 パス ミナー「九州大 ツグオレンジ」	13 第1回電子ジャーナル等検討専門委員会第2次専門部会 13 第1回図書館広報室会議	21 日本医学図書館協会評議員会(東京慈恵会医科大学) 27 国立大学図書館協会理事会(北海道大学)
	1 第2回電子ジャーナル等検討専門委員会第2次専門部会 14 図書館業務改善WG会議 14 第191回附属図書館商議委員会(17年度第3回)	17 九州地区国立大学附属図書館長・事務(部・課)長会議等(~18日)
	2 第3回電子ジャーナル等検討専門委員会第2次専門部会 13 第1回六本松地区移転検討専門部会	27 福岡県図書館協会理事会(福岡県立図書館)
立図書館等 キャンパス)	2 第3回電子ジャーナル等検討専門委員会 9 第2回図書館広報室会議	
	10 第192回附属図書館商議委員会(17年度 第4回) 23 第3回図書館広報室会議 23 第2回全学図書系係長会議	14 福岡県佐賀県大学図書館協議会福岡地区研究会(福岡ガーデンパレス)

平成18年6月発行

編集発行 九州大学附属図書館
〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目10番1号
TEL(092)642-4264 (図書館企画課企画係)

印刷 城島印刷有限公司

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp>